令和６年度 西東京三大学連携事業 英語化科目
特別聴講学生募集要項

１　本制度の実施趣旨

東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学、の西東京三大学は、連携して文系及び理系のそれぞれの強みを生かした「文理協働型グローバル人材育成プログラム」を実施している。本取り組み（英語化科目）は、連携事業の一環として実施するものであり、三大学はそれぞれの特徴を生かした共通教育科目を英語で開講する。学生は、他大学の授業を相互に受講し合うことで、国際感覚や語学力の養成、幅広い視野の獲得及び所属大学や文理の垣根を超えた交流の機会を得る。なお、受入れ側の他大学（以下、「受入れ大学」という。）において修得した単位は、単位互換制度等により、学生を派遣した所属大学（以下、「派遣大学」という。）において修得した単位として認定される。

２　出願資格

令和６年４月１日現在、東京外国語大学、東京農工大学及び電気通信大学に在籍する 1～3 年次までの学部学生で、所属大学を含め三大学において授業科目の履修を希望する者。

ただし、最終講義が 12 月までに終了する科目については、学部４年次生の履修を認める。

３　授業料等

特別聴講学生の検定料、入学料及び授業料は徴収しない。

４　開放科目

別紙のとおり（開講日程はシラバスを参照すること）

三大学英語化科目の全科目が、両学部（農・工）履修可能です。

５　出願手続等

出願者は、下記の通り履修申請すること。

◆　他大学開講科目を履修希望する場合

東京外国語大学・電気通信大学 開講科目を希望する者は、4/30(火)14 時までに、Google フォーム（SIRIUS掲示板 参照）にて申請すること。

※東京外国語大学・電気通信大学 開講科目を希望する者は、下記の書類が必要となる。
該当者には別途連絡する。
（ｉ）写真１枚（縦４㎝、横３㎝）メールに写真データを添付して提出。
（ⅱ）成績証明書（１年生は不要）

※東京外国語大学･電気通信大学 開講科目は､学生が SIRIUS に履修登録する必要はありません。

◆　本学開講科目（「Forest Resources and Biomass」を除く）を履修希望する場合

①他の開講科目と同様、履修登録・修正期間中に SIRIUS(全学教育システム)を通じて登録すること。
※SIRIUS には「開講学部」の項目が「農学部・工学部」いずれかで表示されていますが、三大学英語化科目の全科目が両学部（農・工）受講対象です。

②「Forest Resources and Biomass」(安藤先生)は人数制限が設けられる可能性があるため、SIRIUS ではなく、Google フォーム（SIRIUS掲示板 参照）で申請する事。4/25(木)17：00 締切。

※東京農工大学 開講科目の履修に当たっては、以下の留意点を確認したうえで申請すること。
・東京外国語大学・電気通信大学 開講科目と同様に、学部１～３年次生を履修対象とする。
ただし、最終講義が 12 月までに終了する科目については、学部４年次生の履修を認める。
・所属学部と異なる学部が開講する科目の履修も可とする。

６　受入可否の通知

派遣大学を通じ、7月中旬に通知する。

７　履修期間

履修する授業科目が開講される学期または年度とし、1年以内とする。

８　試験の実施方法

受験上の取扱い等については、受入れ大学の規則による。

９　単位認定

受入れ大学からの成績通知に基づき、派遣大学において単位認定する。
東京外国語大学・電気通信大学 開講科目の履修登録は、前期開講分は１１月中旬頃、
後期開講分は３月中旬頃に、成績登録と履修登録を併せて教務にて SIRIUS へ登録予定です。

10　受入れ大学の施設の利用

履修上必要な施設・設備（附属図書館、食堂等）を利用することができる。なお、通学する際には派遣大学の学生証を携帯すること。

11　授業時間割

【東京外国語大学】

１時限	２時限	３時限	４時限	５時限	６時限	７時限
8:30～10:00	10:10～11:40	12:40～14:10	14:20～15:50	16:00～17:30	17:40～19:10	19:20～20:50

【東京農工大学】

１時限	２時限	３時限	４時限	５時限	６時限
8:45～10:15	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00	18:15～19:45

【電気通信大学】

１時限	２時限	３時限	４時限	５時限	６時限	7時限
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:15～17:45	17:50～19:20	19:30～21:00

12　その他

英語化科目の受講風景など、撮影した写真を広報用の web 及びパンフレットに使用する可能性がある。

13　各大学の所在地及び問い合わせ先

【東京外国語大学】

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

東京外国語大学学務部教務課（TEL:042-330-5168）

西武多摩川線 多磨駅から徒歩約 5 分
京王線 飛田給駅から京王バス
東京外大東停留所 下車徒歩 0 分（バス所用時間約 6 分）
東京外国語大学前停留所 下車徒歩 0 分（バス所用時間約 10 分）
飛田給駅から徒歩約 20 分

※自動車による通学はできません。

【東京農工大学】

東京農工大学学務課（TEL:042-367-5918）

① 農学部（府中キャンパス）　〒183-8509　東京都府中市幸町 3-5-8

JR 中央線　国分寺駅南口から府中駅行きバス約 12 分 晴見町下車
京王線　府中駅北口から国分寺駅行きバス約 7 分 晴見町下車
JR 武蔵野線　北府中駅から徒歩約 12 分

② 工学部（小金井キャンパス）〒184-8588　東京都小金井市中町 2-24-16

JR 中央線　東小金井駅南口から徒歩約 8 分
JR 中央線　武蔵小金井駅南口から徒歩約 13 分

※農学部・工学部とも自動車による通学はできません。

【電気通信大学】

〒182-8585　東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

電気通信大学教務課学域教務係（TEL 042-443-5076・5077）

京王線調布駅北口下車徒歩 5 分

※自動車・オートバイによる通学はできません。

2024年度 西東京三大学連携事業 英語化科目一覧

2024年4月16日現在

通番	開講大学	授業科目名	英文授業科目名	教員名	学期名	曜限等	ページ
1	東京外国語大学	国際社会と地域Ⅰ 〔対話的なグループワークを通じてメンタルヘルスのトピックを探る〕 2024年4月16日更新【場所変更】	Global Society and Local Society Ⅰ 〔Exploring Mental Health Topics through Interactive Group Work〕	奥山 ルシンダ	夏学期	集中	1
2	東京外国語大学	国際社会と地域Ⅰ 〔観光マネジメント入門〕	Global Society and Local Society Ⅰ 〔Introduction to Tourism Management〕	メルヴィン	夏学期	集中	4
3	東京外国語大学	教養としての言語学2 〔スピーチ・コミュニケーション〕	Linguistics for Everyone 2 〔Speech Communication〕	岡田 昭人	秋学期	毎週	8
4	東京外国語大学	日本の現在を知るⅠ 〔日本と国際機関〕 2024年4月16日更新【日程変更】	Aspects of Contemporary Japan Ⅰ 〔Japan in International Organizations〕	イスマイロフ	夏学期	集中	11
5	東京外国語大学	日本の現在を知る2 〔現代日本社会における高齢化と公共政策〕 2024年4月16日更新【曜日・場所変更】	Aspects of Contemporary Japan 2 〔Aging and Public Policies in Contemporary Japanese Society〕	ヤン ズィー	秋学期	毎週	15
6	東京外国語大学	日本の言語を知るⅠ 〔日本の言語多様性〕	Aspects of the Japanese Language Ⅰ 〔Linguistic Diversity in Japan〕	久留須 健一郎	夏学期	集中	19
7	東京外国語大学	日本の文学と文化を知るⅠ 〔ジェンダーと日本における若者文化〕	Aspects of Japanese Literature and Culture Ⅰ 〔Gender and Youth Culture in Japan〕	小野 五弥子	夏学期	集中	23
8	東京外国語大学	日本の文学と文化を知る2 〔日本の食文化〕	Aspects of Japanese Literature and Culture 2 〔Topics in Japanese Food Culture〕	モリス	秋学期	毎週	26
9	東京外国語大学	歴史の中の日本を知る2 〔近現代日本史概説〕	Aspects of Japanese History 2 〔Topics in Modern Japanese History〕	木村 正美	秋学期	毎週	30
10	東京外国語大学	歴史の中の日本を知る2 〔英語で読む現代日本の短編小説〕	Aspects of Japanese History 2 〔Contemporary Japanese Short Stories in English〕	中上 紀	秋学期	毎週	34
11	東京農工大学	三大学連携特別講義I (Global Communication)	Inter-University Special Lecture I (Global Communication)	堀切 友紀子	2学期	集中	39
12	東京農工大学	上級生物学	Advanced Biology	古谷 哲也 安村 友紀	3学期	毎週	42
13	東京農工大学	共生社会について考える	Perspective of the Humanities and Social Science on "Kyosei Society"	吉田央 他	3学期	毎週	47
14	東京農工大学	Water Resources Management 2024年4月16日更新【日程・場所追記】	Water Resources Management	加藤 亮	2学期	集中	51
15	東京農工大学	土と水	Soil and Water	斎藤 広隆	3学期	毎週	53
16	東京農工大学	途上社会における人口事情学 2024年4月16日更新【日程追記】	The Study on Population Affairs in Developing Societies	聶 海松	2学期	集中	55
17	東京農工大学	森林資源とバイオマス	Forest Resources and Biomass	安藤 恵介	2学期	集中	58
18	東京農工大学	Communicating Science 2024年4月16日更新【シラバス差替】	Communicating Science	安村 友紀 Kelsi Matwick	3学期	毎週	61
19	東京農工大学	英語で学ぶ物理学～What is a wave?～	Physics in English～What is a Wave?～	三沢 和彦	4学期	集中	65
20	東京農工大学	日本の大学の国際化と留学促進	Study Abroad and Internationalization in Japan	フリッツ エリック	4学期	集中	67
21	東京農工大学	Sustainable Global Food Production Systems	Sustainable Global Food Production Systems	オンワナ・アジマン・シアウ	3学期	集中	70
22	東京農工大学	Food and Diplomacy 2024年4月16日更新【シラバス差替】	Food and Diplomacy	ケルシー マトウィック 安村 友紀	3学期	毎週	73
23	電気通信大学	学域特別講義A（アルゴリズムの基礎）4月24日更新【日程変更】	Special Lecture on Informatics and Engineering A (Fundamentals of Algorithms)	小林 聡	前学期	集中	76
24	電気通信大学	学域特別講義A（融合領域の最新動向B）	Special Lecture on Informatics and Engineering A] (Current Topics in Emerging Multi-interdisciplinary Engineering B)	菅原 健 他	前学期	集中	79
25	電気通信大学	学域特別講義A（基盤理工学B）	Current Topics in Fundamental Science and Engineering B	松林 和幸	前学期	集中	82
26	電気通信大学	学域特別講義A（基礎物理学実験）	Special Lecture on Informatics and Engineering A (Introduction to Physics Laboratory)	未定	前学期（変更の可能性あり）	集中（変更の可能性あり）	85
27	電気通信大学	学域特別講義A（基礎化学実験）	Special Lecture on Informatics and Engineering A (Introduction to Chemistry Laboratory)	小林 義男	前学期	集中	88
28	電気通信大学	Experimental Electronics Laboratory	Experimental Electronics Laboratory	岸本, Nayak	後学期	毎週	93
29	電気通信大学	UEC Academic Skills I (Computer Literacy)	UEC Academic Skills I (Computer Literacy)	Choo Cheow Keong	後学期	毎週	96
30	電気通信大学	UEC Academic Skills II (Information Literacy and Research)	UEC Academic Skills II (Information Literacy and Research)	Choo Cheow Keong	後学期	毎週	99
31	電気通信大学	UEC Academic Skills III (Publishing Literacy and Research)	UEC Academic Skills III (Publishing Literacy and Research)	Choo Cheow Keong	後学期	毎週	102

※ 東京外国語大学では、授業科目名と授業題目名を分けています。上記の表においては、「授業科目名〔 授業題目名 〕」で記載しています。

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名：国際社会と地域１ 授業題目：対話的なグループワークを通じてメンタルヘルスのトピックを探る		
英文授業科目名	Subject Title: Global Society and Local Society 1 Course Title: Exploring Mental Health Topics through Interactive Group Work		
開講年度	2024	**開講年次**	1, 2, 3, 4
開講学期、日にち、時限	夏学期集中 7/29, 7/31, 8/2　1-5 限 1-5 periods　(8:30-17:30)	**開講場所**	東京外国語大学 研究講義棟 106 室
授業の方法	講義 Lecture	**単位数**	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	奥山　ルシンダ OKUYAMA, Lucinda		
居室	東京外国語大学研究講義棟 4 階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	この集中講義は、人間の行動に興味のある学生、特にメンタルヘルスに関するトピックに興味をもつ学生を対象としています。 メンタルヘルスに関する各トピックを TED-Ed を通して学ぶとともに、他の学生との共同活動によるグループ発表やグループ・ディスカッション等を通して、英語によるコミュニケーション力、表現力および発言力の育成を目指していきます。 This course is designed for students who are interested in human behaviour. If you enjoy learning about mental health topics, this course is for you. Through guided discovery students will learn how to: - participate in student-led sessions - discuss research in a group setting - present research findings to the class
前もって履修 しておくべき科目	n/a
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	n/a

教科書等	･講義資料はクラスで配布します。 ･宿題はオンライン･プラットフォームに投稿され､授業にてディスカッションを行います。 - Resources will be provided via Google Classroom. - Homework will be posted on an online platform and will be discussed in class.
授業内容と その進め方	インポスター症候群、OCD、ナルシシズム、PTSD、慢性ストレス、統合失調症について耳にしたことがありますか？世界中の何百万もの人々がこれらの症状を抱えながら生活をしているにもかかわらず、これらの症状はしばしば誤解されています。この集中講義では、これらの症状とその治療法について学びます。TED-Ed を試聴し、クイズに答えていくことでメンタルヘルスに関する基礎知識を養っていきます。また、他の学生との共同活動のもと、クラス発表を行うことにより、各トピックにおける学習を深めていきます。 第 1 回 講義の概要と説明 第 2 回 インポスター症候群 第 3 回 インポスター症候群に関するグループ・ワーク＆グループ・プレゼンテーション 第 4 回 ダニングクルーガー効果 第 5 回 ダニングクルーガー効果に関するグループ・ワーク＆グループ・プレゼンテーション 第 6 回 依存症 第 7 回 依存症に関するグループ・ワーク＆グループ・プレゼンテーション 第 8 回 強迫性障害 第 9 回 強迫性障害に関するグループ・ワーク＆グループ・プレゼンテーション 第 10 回 ナルシシズム 第 11 回 ナルシシズムに関するグループ・ワーク＆グループ・プレゼンテーション 第 12 回 慢性ストレスと脳 第 13 回 慢性ストレスと脳に関するグループ・ワーク＆グループ・プレゼンテーション 第 14 回 心的外傷後ストレス障害 第 15 回 まとめ&英語学習におけるリフレクション Have you ever heard of imposter syndrome, OCD, narcissism, PTSD, chronic stress or schizophrenia? These conditions impact millions of people globally, yet are often misunderstood. In this course we will explore the symptoms and treatments of these conditions. We will do this though watching short TED-Ed animations that summarise each condition and complete short exercises to test our knowledge. Additionally, students will work together and lead the class in order to deeply engage with each topic. 1 Introduction to the course and course logistics 2 Imposter Syndrome 3 Student-led session on Imposter Syndrome 4 The Dunning Kruger Effect 5 Student-led session on the Dunning Kruger Effect

	6 Addiction 7 Student-led session on Addiction 8 Obsessive Compulsive Disorder 9 Student-led session on Obsessive Compulsive Disorder 10 Narcissism 11 Student-led session on Narcissism 12 Chronic Stress and the Brain 13 Student-led session on Chronic Stress and the Brain 14 Post-Traumatic Stress Disorder 15 Course conclusion, review and reflection
授業時間外の学習 （予習・復習等）	受講生は講義への準備として、課題・宿題をこなすことが求められ、クラスでのグループ・プレゼンテーション用にノートパソコン又はタブレット等が必要となります。この講義の使用言語は英語のみです。 Students must bring their laptops to class and be ready to do group work.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	クラスへの参加度と宿題 30% グループ・プレゼンテーション（6 回分）70% - Class participation and homework - 30% - Student-led group sessions x 6 - 70% - No final exam
オフィスアワー: 授業相談	glip@tufs.ac.jp
学生へのメッセージ	この集中講義では、内容の濃いグループ・ディスカッションをおこなえるように、ひとクラス 30 人以内と学生人数を制限しています。 抽選方式（希望学生数が 30 名以上の場合）。 The number of students per class is limited to 30 or less to allow for in-depth group discussions. A lottery method will be applied if the number of desired students is 30 or more.
その他	n/a
キーワード	心理学、メンタルヘルス、人間行動 Psychology, Mental Health, Human Behaviour

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名：国際社会と地域 1 授業題目：観光マネジメント入門		
英文授業科目名	Subject Title: Global Society and Local Society 1 Course Title: Introduction to Tourism Management		
開講年度	2024	**開講年次**	1, 2, 3, 4
開講学期、日にち、時限	夏学期集中　Summer 7/29, 30, 31, 8/1, 2、2～4 限 2 - 4 periods (10:10-15:50)	**開講場所**	東京外国語大学 研究講義棟 305 室
授業の方法	講義 Lecture	**単位数**	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	メルヴィン・ジョン MELVIN, John		
居室	東京外国語大学研究講義棟 4 階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	この授業を修了した学生は以下が可能となる。 1. 観光セクターの構造と組織、およびさまざまな利害関係者（政府、地域コミュニティ、企業、NGO など）間の相互関係についての説明 2. 観光による悪影響を制限し、観光地の自然、建造物、文化資源の持続可能な開発と管理を可能にするプロセスを明らかにすること 3. 全世界、国家、特定の地域レベルで旅行と観光の成長を促進する要因を明らかにすること 4. 消費者行動の変化と観光業経営者への影響について討論すること 5. テクノロジー、特にソーシャルメディアが観光に与える影響の説明 At the completion of this course, students should be able to: 1. Describe the structure and organisation of the tourism sector and the interrelationships between the various stakeholders (governments, local communities, companies, NGOs, etc.) 2. Identify processes to limit the negative impacts of tourism and enable the sustainable development & management of a destination's natural, built and cultural resources 3. Identify factors facilitating the growth of travel and tourism at the global, national and local level 4. Discuss changes in consumer behaviour and the implications for tourism

	managers 5. Describe the impact of technology, particularly social media, on tourism
前もって履修 しておくべき科目	n/a
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	n/a
教科書等	教科書はなく、配布資料およびリーディング課題は授業中に配布されるか、Moodle で入手できる。 There is no set textbook. Handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on Moodle.
授業内容と その進め方	この授業の目的は、観光についての理解を受講者に提供することである。観光セクターの規模、範囲、組織の概要を把握し、観光が観光地に与えるプラスとマイナスの影響について考察する。さまざまな国際的なケーススタディを通じて、観光地の自然、構築、文化的資源の開発と、それらを持続可能な方法で管理および楽しむ方法について学ぶ。 受講者は、特定の観光地での観光関連の問題に焦点を当て、授業中のディスカッションやグループプロジェクトなどの学習機会で話し合いを行う。受講者は入門コースとして、観光の研究に関連する基本的な問題と学説に遭遇する。 第 1 回 授業の内容と進行の概要：観光の重要性と複雑さを理解する 第 2 回 観光セクターの構造と組織：地方、国内、国際レベルでの観光セクターの構造と組織を探る 第 3 回 観光客：誰が、何を、どこで、なぜ、どのように：観光客のさまざまな類型を探る。さまざまな動機、意思決定、行動を理解する 第 4 回 先進国と発展途上国における観光の影響：観光が受入地域、経済、環境にプラスとマイナスの影響をどのように与えるかを探る 第 5 回 観光―持続可能な開発：より持続可能な方法で観光を管理する方法に関するアプローチについて調査する 第 6 回 夢と経験を売る―観光マーケティング：進化するマーケティング理論、および観光業などのマーケティングサービスの特定の課題ついて検討する 第 7 回 観光とテクノロジー：観光の管理と組織におけるテクノロジーの影響 第 8 回 観光地管理の課題: 国際的なケーススタディから目的地管理を分析する: ヴェネツィア 第 9 回 日本の観光：日本の観光の過去、現在、そして未来の発展について検討する 第 10 回 イベントツーリズム：観光地資源としてのイベントの役割を分析する 第 11 回 文化観光: 文化観光の管理とマーケティング、「信頼性」の重要性、および地域社会に与える影響の幅についての紹介 第 12 回 オーバーツーリズム（観光公害）：オーバーツーリズム（観光公害）の推進要因の検討と Airbnb の分析 第 13 回 観光とアクセシビリティ：パラリンピックと障害者に関するディスカッ

	ションと映像をベースとした授業 第 14 回 グループプレゼンテーション:学生グループプレゼンテーション(トピックは授業中に割り当てられる) 第 15 回 試験 The purpose of this course is to provide students with an understanding of tourism. You will gain an overview of the scale, scope and organization of the tourism sector and consider the positive and negative impacts of tourism on destinations. Through a range of international case studies, we will learn about the development of destinations' natural, built and cultural resources and how these can be managed and enjoyed sustainably. Students will engage in additional learning opportunities such as in-class discussions and a group project, focusing on tourism-related issues at a particular destination. As an introductory course, students will encounter some of the fundamental issues and theories relating to the study of tourism. No.1 Introduction to the Course Content and Class Format: Understanding the significance and complexity of tourism No.2 The Structure and Organization of the Tourism Sector: Exploring the structure and organization of the tourism sector at the local, national & international level No.3 Tourists: Who, What, Where, Why, How: Exploring different typologies of tourists; understanding different motivations, decision-making & behaviors No.4 Tourism Impacts in Developed and Developing Countries: Investigating how tourism can impact positively and negatively on host communities, economies & environments No.5 Tourism - Sustainable Development: Examining approaches on how to manage tourism more sustainably No.6 Selling Dreams and Experiences - Tourism Marketing: Examining evolving theories of marketing, and the particular challenges of marketing services such as tourism No.7 Tourism and Technology: The impact of technology on the management and organization of tourism No.8 Issues in Destination Management: Analyzing destination management from an international case study: Venice No.9 Tourism in Japan: Examining the past, present and future development of tourism in Japan No.10 Event Tourism: Analyzing the role of events as a destination resource No.11 Cultural Tourism: An introduction to the management and marketing of cultural tourism, the importance of 'authenticity' and the range of impacts it can have on local communities No.12 Overtourism: considering the drivers of overtourism, and analysis of Airbnb No.13 Tourism & Accessibility: Discussion and video-based class on the

	Paralympics & people with disabilities No.14 Group Presentations: Student group presentations (topics will be assigned in class) No. 15 Examination
授業時間外の学習 （予習･復習等）	学生は、本授業から最大限の成果を得られるように、指定されたすべてのリーディングと宿題を完了することが求められる。 協調と努力を奨励し評価するため、グループプロジェクトは学生ごとに評価される。 Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures. To encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	1. 授業参加と宿題（30%） 2. グループプレゼンテーションとレポート（30%） 3. 試験（40%） 1. Class participation & homework (30%) 2. Group presentation and report (30%) 3. Exam (40%)
オフィスアワー: 授業相談	glip@tufs.ac.jp
学生へのメッセージ	n/a
その他	n/a
キーワード	観光、観光マーケティング、観光管理、持続可能性、観光の影響 tourism, tourism marketing, tourism management, sustainability, tourism impacts

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名：教養としての言語学２ 授業題目：スピーチ・コミュニケーション		
英文授業科目名	Subject Title: Linguistics for Everyone 2 Course Title: Speech Communication		
開講年度	2024	**開講年次**	1, 2, 3
開講学期、日にち、時限	秋学期 Fall 木曜日３限 Thu. 3rd period (12:40-14:10)	**開講場所**	東京外国語大学 さくらホール
授業の方法	講義 Lecture	**単位数**	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	岡田 昭人 OKADA, Akito		
居室	東京外国語大学研究講義棟４階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	主題および達成目標: この授業は、学生が母語話者と様々な話題について流暢な文体を自在に使いこなして会話できるようになることを目指す。そのため、学生はあらゆる状況（葬儀、結婚式など）でのスピーチを行う。またプレゼンテーションや日本語で行われる講義を聞きながらノートを取る訓練なども行われる。この授業にはスピーチやディベートを行うことによる計画された文化的背景も取り入れられる。 The purpose of this course is designed to teach students to converse fluently with native speakers on a variety of subjects with a full command of speech levels. To achieve this goal, students will make speeches in various situations (funerals, marriage ceremonies, etc.). Advanced training in such skills as oral presentations and note-taking while listening to lectures conducted in Japanese will also be included. In short, this course will include planned culture context through the conduction of speeches and debates.
前もって履修 しておくべき科目	n/a
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	n/a
教科書等	プリントおよび自宅での学習用の参考文献リストを授業中に配布する。

	Printed materials will be distributed at the lectures along with a list of recommended literature for home reading.
授業内容と その進め方	それぞれの学生は毎週 3 分ほどのスピーチを日本語で行う。スピーチ後に 3 名の日本語母語話者の学生により、コミュニケーション能力を高めるための書面による評価が行われる 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 友達紹介 第 3 回 選挙スピーチ 第 4 回 選挙スピーチ① 第 5 回 選挙スピーチ② 第 6 回 選挙スピーチ③ 第 7 回 CM 制作 第 8 回 CM 制作① 第 9 回 CM 制作② 第 10 回 CM 制作③ 第 11 回 スピーチ 第 12 回 スピーチ 第 13 回 スピーチ 第 14 回 ALH1 英語でディスカッション 第 15 回 ALH1 CM 制作 Each student is required to present a speech in Japanese each week (approximately 3 minutes in length), which will be assessed by a panel consisting of three native Japanese speakers. At the end of each speech the student will be given written suggestions from the panel on how to improve their communication abilities. 1. Orientation 2. Introduce your friend (student presentation: each student introduces your class mate) 3. Election Speech (instruction for election speech) 4. Election Speech1 (student presentation: each student makes a campaign speech) 5. Election Speech2 (student presentation: each student makes a campaign speech) 6. Election Speech3 (student presentation: each student makes a campaign speech) 7. Making CM (instruction: how to make CM) 8. Making CM1 (student presentation: each student makes a commercial and show it) 9. Making CM2 (student presentation: each student makes a commercial and show it)

	10. Making CM3 (student presentation: each student makes a commercial and show it) 11. Speech without preparation1 (each student makes a speech without preparation.) 12. Speech without preparation2 (each student makes a speech without preparation.) 13. speech without preparation3 (each student makes a speech without preparation.) 14. ALH1 Discussion in English (between the 6th and 7th) 15. ALH1 Making CM(between the 10th and 11th) To improve speech and creativity through AL.
授業時間外の学習 （予習･復習等）	予習・復習を行うこと。 Do pre and after study.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	ALH 20% 毎週のプレゼンテーション　30% ディスカッションへの参加　20% 中間・期末プロジェクト　30% ALH 20% Weekly presentation 30% Discussion participation 20% Mid-term and Final project 30%
オフィスアワー: 授業相談	glip@tufs.ac.jp
学生へのメッセージ	n/a
その他	n/a
キーワード	スピーチコミュニケーション speech

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名：日本の現在を知る 1 授業題目：日本と国際機関		
英文授業科目名	Subject Title: Aspects of Contemporary Japan 1 Course Title: Japan in International Organizations		
開講年度	2024	**開講年次**	1, 2, 3, 4
開講学期、日にち、時限	夏学期 Summer 9/10, 11, 13　1-5 限 1-5 periods (8:30 -17:30)	**開講場所**	オンライン
授業の方法	講義 Lecture	**単位数**	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	イスマイロフ・ムロド ISMAILOV, Murod		
居室	東京外国語大学研究講義棟 4 階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	この授業では、日本の外交政策が、さまざまな国際機関での活動において地球的規模で与える影響とその範囲について理解することを目的とする。 The goal of this course is to help students understand the scope and impact of Japan's foreign policy on a global level as seen through its involvement in the activities of various international organisations.
前もって履修 しておくべき科目	n/a
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	n/a
教科書等	教科書はない。参考書については事前の購入不要。詳細については初回の授業で説明する。 There is no set textbook.　Please, DO NOT buy any of the mentioned books beforehand. Details will be announced during the first session. 参考書/Reference books 参考書/Reference book 1 ISBN: 1-107-61261-7

	書名: International organizations : politics, law, practice 著者名: Ian Hurd 出版社: Cambridge University Press 出版年: 2014 参考書/Reference book 2 書名: Diplomatic Bluebook of Japan's Foreign Policy (2023) 著者名: MFA of Japan 出版社: MFA of Japan 出版年: 2023 備考: https://tinyurl.com/tr668eec 参考書/Reference book 3 ISBN: 9781138182103 書名: Routledge handbook of Japanese foreign policy 著者名: edited by Mary M. McCarthy 出版社: Routledge 出版年: 2018
授業内容と その進め方	この授業では、国際機関について検討するために重要な４つの側面である(1) 理論、(2) 基本概念、(3) 重要な論点、(4) 将来の課題、について紹介する。これら４つの側面を現実の場面に即したシミュレーション、集中的なグループ活動、分析ワークショップなどのインタラクティブ モジュールを通して学ぶ。 第１回 コースの概要 第２回 現代日本の外交政策の重要な柱 第３回 国際機関(IO)：歴史的進化 第４回 第二次世界大戦以降の IO 第５回 日本と IO：定義、機能、役割 第６回 現代日本の外交政策における IO の役割 第７回 政治的 IO における日本（国連を含む） 第８回 経済的 IO における日本 第９回 社会的およびその他の IO における日本 第 10 回 日本の状況：地域主義 vs 普遍主義 第 11 回 シミュレーション＃1：日本と UNSC 第 12 回 シミュレーション＃2：日本と気候交渉 第 13 回 シミュレーション＃3：日本と人道的危機 第 14 回 シミュレーション：国連のモデル 第 15 回 シミュレーション：国連のモデル This course will introduce 4 crucial aspects in the analysis of international organisations: (1) Theories, (2) Concepts, (3) Key Issues, (4) Future Challenges. All four aspects will be studied through interactive modules which will include real-life simulations, intensive team-work, analytic workshops.

	1 Introduction to the course; 2 Key pillars of Japan's contemporary foreign policy; 3 International organisations (IO): historical evolution; 4 Post-Second World War IOs; 5 Japan & IOs: definitions, functions and roles; 6 Role of IOs in Japan's contemporary foreign policy; 7 Japan in Political IOs (incl. UN); 8 Japan in Economic IOs; 9 Japan in Social and Other IOs; 10 Japan's Position: regionalism versus universalism. 11 Simulation #1: Japan and UNSC; 12 Simulation #2: Japan and Climate Talks; 13 Simulation #3: Japan and Humanitarian Crises; 14 Model United Nations (simulation) 15 Model United Nations (simulation)
授業時間外の学習 （予習・復習等）	1）このクラスは入門レベルであり、政治学の経験がない学生も参加できる。東京外国語大学の提携大学の学生も大いに歓迎する。 2）チームやクラスメートとの積極的な交流を期待する。 3）出席を確認する。 4）この授業はオンラインで行われる予定である。開講形態についての詳細は、履修登録をした学生にメールにて送信する。 5）授業時間内に、資料を配布する。 1) The course is introductory. Students with no prior background in political studies are welcome to join. Students from TUFS' partner universities are welcome too. 2) Expect active interaction with your team and classmates. 3) Attendance will be checked. 4) The course is expected to be held online. Detailed instructions regarding the mode of instruction will be sent by email to the registered students. 5) Printed materials will be distributed at the lectures.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	個々のミニプロジェクト-30% グループ活動-30% クラス内課題および宿題-20% 最終レポート課題-20% Individual mini-projects - 30 % Team-based activities - 30 % In-class and home assignments - 20% Final written assignment - 20%
オフィスアワー: 授業相談	glip@tufs.ac.jp

学生へのメッセージ	参考書については事前の購入不要。詳細については初回の授業で説明する。 Please, DO NOT buy any of the mentioned books beforehand. Details will be announced during the first session.
その他	n/a
キーワード	日本、日本の外交政策、国際機関 Japan, Japanese foreign policy, international organisations

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名：日本の現在を知る 2 授業題目：現代日本社会における高齢化と公共政策		
英文授業科目名	Subject Title: Aspects of Contemporary Japan 2 Course Title: Aging and Public Policies in Contemporary Japanese Society		
開講年度	2024	**開講年次**	1, 2, 3
開講学期、日にち、時限	秋学期　Fall 木曜日　2　限 Fri. 2nd period (10:10 – 11:40)	**開講場所**	東京外国語大学 研究講義棟 307室
授業の方法	講義 Lecture	**単位数**	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	ヤン　ズィー YAN, Zi		
居室	東京外国語大学研究講義棟 4 階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	1. 日本の高齢化社会の歴史的、社会的、経済的、政治的文脈を理解することができます。 2. 高齢者社会福祉政策を批判的に分析し、評価します。 1. Understand the historical, social, economic, and political context of Japan's aging society. 2. Critically analyze and evaluate the social welfare policies that have been developed in Japan to address the needs of older adults.
前もって履修 しておくべき科目	n/a
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	n/a
教科書等	教科書はありません。 There is no set textbook. 参考書/Reference books 参考書/Reference book 1 ISBN: 9780124172357 書名: Handbook of aging and the social sciences

	著者名: edited by Linda K. George and Kenneth F. Ferraro; associate editors, Deborah Carr, Janet M. Wilmoth, and Douglas A. Wolf 出版社: Academic Press 出版年: 2016 参考書/Reference book 2 書名: 高齢社会白書 著者名:内閣府 備考: https://www8.cao.go.jp/kourei/wh
授業内容と その進め方	日本が現在直面している少子高齢化、比較的貧しい人々の増加、所得格差の拡大化進行といった社会変化の現状と課題について概観します。その上で、このような課題に直面する中で、生活保障のあり方を、「家族」、「地域」、「企業・市場」、「政府」のそれぞれの役割から展望します。 コースは大きく 2 つのパートに分かれています。パート I では、「現代公共政策における理論的な視点」を紹介し、公共政策とは何か、政策形成過程について、深く理解を深めます。パート II では、学生たちは日本の高齢化社会の歴史的、社会的、経済的、政治的文脈を探究し、高齢者のニーズに対処するために導入された社会福祉政策を批判的に分析します。また、日本の高齢化社会が社会福祉政策に対してもたらす課題や機会を検討し、日本における高齢化と社会福祉政策に対する革新的なアプローチを探究します。 第 1 回 授業のスケジュールの説明 第 2 回 公共政策とは何か？ 第 3 回 公共政策の種類 第 4 回 公共政策における公式/非公式の関係者とその役割 第 5 回 日本の家族関係と生活環境 第 6 回 日本の高齢化社会の人口動向と社会・経済・政治的な文脈 第 7 回 日本のインフォーマル介護者と介護負担 第 8 回 日本の医療と介護 第 9 回 日本の成年後見制度 第 10 回 ALH1 日本の社会支援と地域包括ケア（中間レポート） 第 11 回 日本の移民、テクノロジーと高齢化の課題 第 12 回 ALH2 アクティブ・ラーニング：学生グループディスカッション&プレゼンテーション中間レポートに基づいてグループプレゼンテーションを行います（1 月に発表します） 第 13 回 アクティブ・ラーニング：学生グループディスカッション&プレゼンテーション 第 14 回 学生プレゼンテーションのフィードバック 第 15 回 ゲストスピーチ ※ このコースでは、コースの読書、動画、課題を共有するために Google Classroom を使用します。Google Classroom にアクセスするには、学生は Google アカウントを登録する必要があります。

	This course provides an overview of the various challenges faced by Japan, including a hyper-aging and declining population, rising numbers of relatively poor, and growing income inequalities. We will also discuss how to ensure basic living standards amidst the aforementioned challenges from the perspectives of "family," "community," "business and market," and "government." The course consists of two major parts. Part I introduces you to the “theoretical lenses to contemporary public policy”, we will develop an in-depth understanding of what public policy is and how policy is shaped. In Part II, students will explore the historical, social, economic, and political context of Japan's aging society and critically analyze the social welfare policies that have been implemented to address the needs of older adults. The course will also examine the challenges and opportunities that Japan's aging society presents for social welfare policy and explore innovative approaches to aging and social welfare policy in Japan. 1 Course Orientation 2 What is public policy? 3 Types of public policy 4 Official/unofficial actors and their roles in public policy 5 Family relationships and Living arrangements in Japan 6 Demographic trends and social, economic, and political context of Japan’s aging society 7 Informal caregivers and caregiver burden issues in Japan 8 Healthcare and Long-term care in Japan 9 Adult Guardianship System in Japan 10 ALH1 Social support and community-based integrated care in Japan （submit a midterm report）-ALH1 11/ Migration, Technologies and aging issue in Japan 12/ ALH2 Active learning - Student group discussion & presentation Students will make a group presentation based on their midterm report (Present on January)-ALH2 13 Active learning - Student group discussion & presentation 14 Presentation feedback 15 Guest speech * This course will use Google Classroom to share course readings, videos, and assignments. Students may need to register a google account to access the Google Classroom.
授業時間外の学習 （予習･復習等）	1. 65 歳以上の高齢の家族や友人をインタビューし、介護に関する態度や支援体制についての中間レポートを提出します（A4 版 1 枚以内）。 2. グループでの研究プロジェクトに参加し、グループでプレゼンテーションを行います。 3. インタビューした高齢者と現在の介護政策について分析し、期末レポートを提出します（A4 版 2 枚以内）。

	1. Students will interview an older family member or friend (at least 65 years old) and write a mini-midterm report (within 1 sheet of A4 paper) about their eldercare attitudes and arrangements. 2. Students will engage in a group research project and present an in-class group presentation together. 3.Students will write a final report (within 2 sheets of A4 paper) by reflecting on the interview of an older adult interviewed and the current eldercare policies.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	1.出席率: 20% 2.中間レポート- ALH1: 20% 3.グループプレゼンテーション-ALH2: 20% 4.期末レポート:40% Participation & Engagement: 20% Midterm report-ALH1: 20% Group Presentation-ALH2: 20% Final report: 40%
オフィスアワー: 授業相談	glip@tufs.ac.jp
学生へのメッセージ	この授業は、英語のみによる講義に慣れていない学生向けに、より平易な英語で開講されます。成績は原則英語力ではなく、授業への取り組みによって評価されます。 This course is taught in simpler language than regular lectures in English. It is especially recommended to students who are not familiar with lectures taught in English only. Student performance is assessed by its content rather than the English language level.
その他	n/a
キーワード	高齢化、公共政策、日本 Aging, Public Policies, Japan

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名：日本の言語を知る 1 授業題目：日本の言語多様性		
英文授業科目名	Subject Title: Aspects of the Japanese Language 1 Course Title: Linguistic Diversity in Japan		
開講年度	2024	**開講年次**	1, 2, 3, 4
開講学期、日にち、時限	夏学期集中　Summer 8/26 – 8/30、2～4 限 2-4 periods　（10:10-15:50）	**開講場所**	オンライン
授業の方法	講義 Lecture	**単位数**	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	久留須 健一郎 KURUSU, Kenichiro		
居室	東京外国語大学研究講義棟 4 階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	本授業は、現代日本社会における言語多様性について議論することを目的とする。本授業終了後、学生には以下のことを期待する： (a) 日本社会がいかに言語的に多様であるかを十分に認識する。 (b) 日本社会の多様な言語状況の歴史的、社会経済的背景とその発展について包括的に説明できる。 (c) 日本社会の多言語状況に関連する問題や課題について適切に議論し、対応することができる。 (d) 日本社会の多言語状況に関連する問題や課題に対処する方法を効果的に模索することができる。 The course aims to engage students in the discussion of language diversity in contemporary Japanese society. Hence, at the end of the course, students must be able to: (a) Genuinely recognize how the Japanese society is linguistically diverse; (b) Extensively describe and explain the historical and socio-economic background and development of diverse linguistic situations and ecologies of Japanese society; (c) Adequately discuss and respond to issues and challenges in relation to the multilingual situation of Japanese society; and (d) Effectively seek ways to address issues and challenges in relation to the multilingual situation of Japanese society.

前もって履修 しておくべき科目	n/a
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	n/a
教科書等	教科書はありません。 There is no set textbook. 参考書/Reference books 参考書１ ISBN: 9781032177939 書名： Routledge handbook of Japanese sociolinguistics 著者名： edited by Patrick Heinrich and Yumiko Ohara 出版社： Routledge 出版年： 2019 参考書２ ISBN: 9784883033492 書名：多言語社会日本： その現状と課題 著者名：多言語化現象研究会編 出版社：三元社 出版年： 2013
授業内容と その進め方	日本はしばしば、国語である日本語のみが使われるモノリンガルの国だと考えられがちである。行政、立法、教育、日常会話など、ほぼすべての領域で日本語が使われているのは事実である。しかし、日本にはアイヌ語や琉球語など様々な固有言語や、中国語、韓国語、スペイン語、タガログ語、ベトナム語、英語などの外国語も使われており、移民やその子孫も社会の一部となっている。 これらを踏まえ、本授業では、現代日本社会における言語多様性を扱う。まず、日本社会における現在の多様な言語状況を概観し、認識を深める。次に、日本社会における多言語状況について、歴史・社会経済的背景、関連する理論やアプローチを考慮しながら、既存の課題や新たに生じる課題について議論する。最後に、日本社会の多言語状況に関連する様々な問題や課題に対処するために必要な視点を提供する。 第１回 オリエンテーション 第２回 日本の言語：アイヌ語・琉球諸語 第３回 日本の言語：日本語諸方言 第４回 日本の移民言語：中国語・韓国語 第５回 日本の移民言語：スペイン語・ベトナム語・タガログ語、他 第６回 日本における英語 第７回 言語政策と計画、多言語主義 第８回 言語と移民 第９回 言語変種・言語変化 第 10 回 言語景観

	第 11 回 問題と課題１：言語保存と復興 第 12 回 問題と課題２：言語シフトと維持 第 13 回 問題と課題３：言語多様性と教育 第 14 回 まとめ 第 15 回 最終レポートに向けた準備と面談 Japan is often assumed as a monolingual country with a single national language: Japanese. Practically, it is true that Japanese is used nationwide in almost every domain in the country, such as administration, legislation, education, and daily conversation. However, Japan is also home to various indigenous languages (e.g., Ainu and Ryukyuan), and non-indigenous languages (e.g., Chinese, Korean, Spanish, Tagalog, Vietnamese, and English) as migrants and their descendants are also part of the Japanese society. As such, this course deals with the diversity of language in contemporary Japanese society. First, it introduces and makes students aware of the current diverse linguistic situation in Japanese society. Second, it discusses existing and emerging issues and challenges concerning the multilingual situation in Japanese society, considering the historical and socio-economical background and the relevant theories and approaches. Finally, it provides relevant and necessary perspectives to address various issues and challenges in relation to the multilingual situation of Japanese society. 1st: Course introduction 2nd: Languages of Japan: Ainu & Ryukyuan 3rd: Languages of Japan: Japanese dialects 4th: Languages of Japan by earlier migrants: Chinese and Korean 5th: Languages of Japan by contemporary migrants: Spanish, Vietnamese, Tagalog, etc. 6th: English in Japan 7th: Language policy, planning, and multilingualism 8th: Language and migrants 9th: Language variation and change 10th: Linguistic landscape 11th: Issues and challenges 1: Language preservation and revitalization 12th: Issues and challenges 2: Language shift and maintenance 13th: Issues and challenges 3: Linguistic diversity and education 14th: Synthesis 15th: Preparation and consultation for the final report
授業時間外の学習 （予習･復習等）	n/a
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	授業・議論への参加：40% 一日の振り返りシート：20% 最終レポート：40% 学生は英語で質問をしたり、ディスカッションに参加したりするなど、積極的に授業

	に参加することが期待される。また、1週間の集中講義であるため、1日ごとに振り返りシートの提出を求める。振り返りシートと最終レポートの詳細は授業中に説明する。 Class activities and participation: 40% Reflection papers per day: 20% Final report: 40% Students are encouraged to actively participate in the class by asking questions and being engaged in discussions in English. Students are also required to submit brief reflection papers per day as this is a one-week intensive course. Details of reflection papers and final report will be given in the class.
オフィスアワー: 授業相談	glip@tufs.ac.jp
学生へのメッセージ	本授業は1週間の集中講義である。学習成果を高めるため、学生はすべての授業に出席し、議論に積極的に参加することが求められる。 Since this is a week-long intensive course, students are encouraged to attend all classes and actively participate in class discussions for their effective learning outcomes.
その他	本授業は完全オンラインで実施する。 This course will be conducted purely online.
キーワード	社会言語学、言語多様性、多言語主義、固有言語、言語と移民 Sociolinguistics, linguistic diversity, multilingualism, indigenous languages, language and migration

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名：日本の文学と文化を知る 1 授業題目：ジェンダーと日本における若者文化		
英文授業科目名	Subject Title: Aspects of Japanese Literature and Culture 1 Course Title: Gender and Youth Culture in Japan		
開講年度	2024	**開講年次**	1, 2, 3, 4
開講学期、日にち、時限	夏学期集中　Summer 9/9 – 9/13、2～4 限 2-4 periods　(10:10-15:50)	**開講場所**	オンライン
授業の方法	講義 Lecture	**単位数**	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	小野　五弥子 ONO, Sayako		
居室	東京外国語大学研究講義棟 4 階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	日本のジェンダー観によって大きく形作られた若者文化に、学生が批判的に取り組めるようにすることが本授業の目的です。学生は授業にて、若者が大衆文化を消費することによってジェンダー規範がどうように強化または抵抗されるかについて話し合います。 The goal of this course is to enable students to engage critically with youth culture, which is largely shaped by gender ideals in Japan. In class, students will discuss gender norms and how young people reinforce or resist these norms by consuming popular culture.
前もって履修 しておくべき科目	n/a
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	n/a
教科書等	教科書は使用しません。課題図書はすべて Google Classroom からダウンロード可能です。 We will not use a textbook. Students can download all assigned readings from Google Classroom.

	参考書/Reference book ISBN: 9781032082264 書名: The Routledge companion to gender and Japanese culture 著者名: edited by Jennifer Coates, Lucy Fraser, and Mark Pendleton 出版社: Routledge 出版年: 2021
授業内容と その進め方	この授業では、ジェンダー役割に関連する日本の若者文化に関する人類学的な視点を分析します。授業の前半では、ジェンダー平等、LGBT、セクシャルハラスメントなど、ジェンダー問題の理論的枠組みについて議論します。政府、社会、家族、個人がこれらの問題にどのように対応しているかを調査します。授業の後半では、ユースカルチャー、すなわちアイドル文化、理想の体型、美意識に関連するケーススタディに焦点を当てます。若者がジェンダーの理想を表現するためにどうようにこれらの文化を利用しているかについて話し合います。 第 1 回 はじめに（毎週の課題とレポートの書き方の説明） 第 2 回 職場と政治におけるジェンダー平等 第 3 回 家庭におけるジェンダー平等　Gender inequality in the family 第 4 回 ジェンダーと戸籍：夫婦別姓 第 5 回 ジェンダーと戸籍：無戸籍者、同性婚 第 6 回 LGBT 関連 第 7 回 セクシャルハラスメントと男女雇用機会均等法 第 8 回 性暴力と刑法 第 9 回 アイドルとマンガ文化 第 10 回 児童ポルノと表現の自由 第 11 回 理想の体型、ダイエット、摂食障害 第 12 回 美意識、ジェンダーレスファッション 第 13 回 まとめ：ジェンダーと現代文化 第 14 回 研究計画とデータ収集を提出 第 15 回 レポート提出 Overview of the course The course will examine the anthropological perspective on Japanese youth culture in relation to gender roles. The first half of the course discusses theoretical frameworks for gender issues, namely gender equality, LGBT issues and sexual harassment. We examine how the government, society, family and individuals address these issues. The second half of the course focuses on case studies related to youth culture, namely idol culture, the body and beauty ideals. We discuss how young people use this culture to represent their gender ideals. 1 Introduction (guidance on weekly assignments and writing a report) 2 Gender gaps in the workplace and politics 3 Gender inequality in the family 4 Gender and the family registration system: Shared family names

	5 Gender and the family registration system: Unregistered citizens, same-sex marriage 6 LGBT issues in Japan 7 Sexual harassment and the Equal Employment Opportunity Law 8 Sexual assault and penal codes 9 Idol/manga culture 10 Child pornography vs. freedom of expression 11 Body ideals, dieting/eating disorders 12 Beauty ideals, gender-neutral fashion 13 Summary: Gender and contemporary culture 14 Research plan, data collection 15 Report submission
授業時間外の学習 （予習・復習等）	講師は毎週ディスカッションの論題を提供します。学生は毎週、授業前に課された文献に基づいて質問に答え、授業中に関連テーマについて討論します。学生は、文献を通じて授業で取り上げたテーマに関するデータをまとめ、授業最終週に1,500 語のレポートを作成します。 The instructor will provide a weekly discussion question. Students must answer the question based on the required readings prior to class, and discuss related topics in class on a weekly basis. Students will also collect data on a topic covered in class through readings, and write a 1,500-word report about it at the end of course.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	授業中の発言を含む、授業への積極的参加：25% 毎週の課題:25% 研究計画 5%、データ収集 5%、最終レポート 30% Active class participation, including class discussions (25%) Weekly assignments (25%) Research plan (5%), data collection (5%), writing a research report (30%)
オフィスアワー: 授業相談	glip@tufs.ac.jp
学生へのメッセージ	データの収集方法、分析方法などについては授業中に説明します。 Methods including data collection and analysis will be explained in class.
その他	n/a
キーワード	日本、若者文化、ジェンダーとセクシャリティ、データ収集 Japan, youth culture, gender and sexuality, data collection

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名：日本の文学と文化を知る 2 授業題目：日本の食文化		
英文授業科目名	Subject Title: Aspects of Japanese Literature and Culture 2 Course Title: Topics in Japanese Food Culture		
開講年度	2024	**開講年次**	1, 2, 3
開講学期、日にち、時限	秋学期 Fall 水曜日 4 限 Wed. 4th period (14:20 -15:50)	**開講場所**	オンライン
授業の方法	講義 Lecture	**単位数**	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	モリス MORRIS, Jon		
居室	東京外国語大学研究講義棟 4 階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	この授業にて学生は、 (1) 日本の食文化に用いられる研究方法および理論的な話を理解できるようになる。 (2) 日本の食品研究の傾向について批判的思考を適用して、健全な方法論に基づいて微妙かつ正確な学術的言説を展開するプロセスについて次第に精通するようになる。 (3)日本食学の分野における学術論文を理解し、正確に要約し、自身の研究を効果的に構成し、発表できるようになる。 (4) 日本の食文化について有意義な質問をし、独自の研究を行うことができるようになる。 Students will: (1) understand the research methods and theoretical narratives applied to Japanese food culture. (2) be able to apply critical thinking to trends within Japanese food studies and be familiar with the process of developing increasingly nuanced and accurate academic discourse based on sound methodology. (3) be able to understand and accurately summarize academic writing in the field of Japanese food studies, and structure and present their own work effectively. (4) be able to pose meaningful questions and conduct independent research on Japanese food culture.
前もって履修	n/a

しておくべき科目	
前もって履修しておくことが望ましい科目	n/a
教科書等	教科書はなく、教材はすべて講師が準備する。 No textbooks have been set. All materials will be provided by the instructor.
授業内容とその進め方	食は人間社会の最も基本的な側面だが、食品研究や食文化は学問的には未熟な分野である。食は日本の社会的、経済的、宗教的、文化的生活において非常に重要な役割を果たしてきたが、さまざまな日本研究の分野ではまだ注目されていない。この授業では、日本研究における食品研究へのアプローチを探求する若い研究者に動機付けを行うことを目的としている。 本授業は話題に基づいた形式を取り、ディスカッションと批判的思考のきっかけとなるアクティブラーニング活動を含む。本膳、懐石、精進などの古典的な料理と、寿司やラーメンなどの象徴的な嗜好品について国境を越えた視点から検討する。学生には、捕鯨、国内労働力と生産不足、スローフード運動などの政治化された問題、および禅宗、山岳宗教、前近代的な菜食主義などの宗教的実践における食品の役割などの話題に関連した日本食に関する重要な話が紹介される。必要に応じて、食品技術、経済学、流通、具体性についても意見を交わす。 授業終了時までに、学生は日本の食文化の理知的で歴史的な複雑さ、地域の多様性、多国籍性について理解を深めることができる。 第 1 回 オリエンテーションと入門講義 第 2 回 先史時代の日本人の食事 第 3 回 前近代の日本人の食生活 第 4 回 和食とは？ 第 5 回 近世日本の食事 第 6 回 日本の味と調味料 第 7 回 茶道 第 8 回 日本における宗教食 第 9 回 日本への洋食の伝来 第 10 回 現代日本の食生活と食政策 第 11 回 ラーメンが日本にやってくる 第 12 回 ラーメンが日本の代表料理になる 第 13 回 日本料理のグローバル化 第 14 回 ALH1: 学生は、大森いさみ著 “The Redefinition of Washoku as National Cuisine: Food Politics and National Identity in Japan,” International Journal of Social Science and Humanity vol. 7, no. 12, pp. 729-734, 2017 (オンラインで入手可能) を読み、500～800 語の詳細な要約と感想文作成の準備を行う。このアクティブラーニングはオンデマンドであり、書面による提出期限(ALH2)までの間、随時行うことができる。 第 15 回 ALH2: 学生は、大森いさみ著 “The Redefinition of Washoku as National Cuisine: Food Politics and National Identity in Japan,” International Journal of Social Science and Humanity vol. 7, no. 12, pp. 729-734, 2017 (オンラインで入手可

	能）を読み、500～800 語の詳細な要約と感想文を作成する。このアクティブラーニングはオンデマンドであり、第 13 授業回の一週間後から提出期限までの間（Google Classroom にて）随時提出可能である。 Food is the most fundamental aspect of human society, but Food Studies and Food Culture are still young fields in academia. Food has played a hugely significant role in social, economic, religious and cultural life in Japan, but it has yet to receive the attention it deserves in the various fields of Japan Studies. This course aims to inspire young researchers to explore Food Studies approaches in Japan Studies. The class takes a topic based format and includes active learning activities to stimulate discussion and critical thinking. Classic cuisines such as honzen, kaiseki and shojin and iconic favourites such as sushi and ramen are examined from a transnational perspective. Students are introduced to the critical discourse on Japanese food as it relates to topics including politicized issues such as whaling, domestic labour and production shortages and the slow food movement, or the roles of food in religious practice such as Zen Buddhism, mountain religion and pre-modern vegetarianism. Food technology, economics, distribution and materiality are discussed where appropriate. By the end of the course, students will have gained an appreciation of the intellectual and historical complexity, regional diversity and transnationality of food culture in Japan. 1: Orientation and introductory lecture 2: Prehistoric Japanese diets 3: Pre-modern Japanese diets 4: What is Washoku? 5: Early Modern Japanese diets 6: Japanese tastes and condiments 7: The Way of Tea 8: Religious diets in Japan 9: The introduction of western foods to Japan 10: Modern Japanese diets and food policies 11: Ramen comes to Japan 12: Ramen becomes a representative Japanese dish 13: The globalization of Japanese cuisine 14: ALH1: Students read Isami Omori, “The Redefinition of Washoku as National Cuisine: Food Politics and National Identity in Japan,” International Journal of Social Science and Humanity vol. 7, no. 12, pp. 729-734, 2017. (available online) and write notes in preparation for producing a detailed summary and review of 500-800 words in length. This active learning activity is on demand and may be carried out at any time, so long as the written work deadline (for ALH2) is met. 15: ALH2: Students write a detailed summary and review of 500-800 words in length of Isami Omori, "The Redefinition of Washoku as National Cuisine: Food Politics and National Identity in Japan," International Journal of Social Science

	and Humanity vol. 7, no. 12, pp. 729-734, 2017. This active learning activity is on demand and may be submitted at any time before the deadline (via Google Classroom): one week after the 13th class.
授業時間外の学習 （予習・復習等）	学生は、日本の食文化に関する広範囲にわたる文献を読むこと。 Students should read as widely as possible on the subject of Japanese food culture.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	要約／レビュータスク：(ALH2) 25% リサーチエッセイ：75% 講師の指導のもと、日本の食文化にまつわるテーマでリサーチエッセイを作成し、方法論の指導を受ける。エッセイの長さは、最低 2000 語。第 13 授業回の一週間後から提出期限までの間（Google Classroom にて）随時提出可能である。 Summary/Review Task: (ALH2) 25% Research Essay: 75% With guidance from the instructor, students set themselves a research essay on a topic related to Japanese food culture and receive guidance on methodology. The essay must be at least 2000 words in length. It may be submitted at any time during the course (via Google Classroom), before the deadline is one week after the 13th class.
オフィスアワー： 授業相談	glip@tufs.ac.jp
学生へのメッセージ	このクラスはオンラインで開講される。 This class will be held online.
その他	n/a
キーワード	日本、食、文化、歴史、グローバル化 Japan, food, culture, history, globalization

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名：歴史の中の日本を知る 2 授業題目：近現代日本史概説		
英文授業科目名	Subject Title: Aspects of Japanese History 2 Course Title: Topics in Modern Japanese History		
開講年度	2024	**開講年次**	1, 2, 3
開講学期、日にち、時限	秋学期 Fall 金曜日 2 限 Fri. 2nd period (10:10 – 11:40)	**開講場所**	東京外国語大学 研究講義棟 307 室
授業の方法	講義 Lecture	**単位数**	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	木村 正美 KIMURA, Masami		
居室	東京外国語大学研究講義棟 4 階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	このクラスでは、明治期から昭和期までの近現代日本史を英語で学びます。その知識を深め、英語の語彙を増やし、また史的分析・解釈力を伸ばすことを主目的としています。 In this class, we will learn a modern history of Japan (from the Meiji to the Showa periods) in English. You can increase your general knowledge and English vocabulary of modern Japanese history and improve your skills in historical analysis and interpretation.
前もって履修 しておくべき科目	n/a
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	n/a
教科書等	抜粋したテキストをクラスで使用します（別途指示）。 Selected readings will be provided in class. 参考書/Reference book ISBN: 9780618914944 書名: A Brief History of Chinese and Japanese Civilizations 著者名: Conrad Schirokauer ... [et al.]

	出版社: Harcourt Brace Jovanovich 出版年: 2006 使い慣れた英語＝日本語・母国語辞典や英英辞典を持参して下さい。同義語辞典も役立ちます。 Bring your own English-Japanese/ your mother tongue and English-English dictionaries; a Thesaurus would be useful, too.
授業内容と その進め方	このクラスは、19 世紀半ばから 1970 年代までの日本史概説です。この間、日本は半封建・半中央集権的国家から統一された近代的国民国家へと変化を遂げますが、その近代化の過程において、対外的には帝国主義の道に進み、対内的には権威主義支配と民主化、自由と権利の拡大という相反する政治・社会的要求への対応に苦闘していきます。第二次世界大戦での敗戦後も、日本は「近代化」を追求し続け、経済的にはより豊かで、また自由で民主的な社会へと発展を遂げますが、このジレンマは続き、さまざまな問題に直面し続けます。近現代日本における政治、社会経済、思想文化的発展を追いながら、これらのテーマについて考え理解を深めていきます。 第 1 回 クラスの概要、自己紹介 第 2 回 開国 第 3 回 明治維新 第 4 回 近代政治機構の成立 第 5 回 明治社会と経済 第 6 回 帝国主義への道 第 7 回 中間試験 第 8 回 大正デモクラシー 第 9 回 1920 年代 - 30 年代：戦時体制へ 第 10 回 アジア・太平洋戦争 第 11 回 連合国日本占領 第 12 回 戦後政治・社会 第 13 回 期末試験 第 14 回 ALH1 一次史料講読（『福翁自伝』の一部）：第 5 回で使用（ディスカッションに備えること 第 15 回 ALH2 一次史料講読（講和・安保問題や市民活動に関する一次史料）：第 11 回で使用（ディスカッションに備えること 注） 最大 35 名まで履修可； 主に日本人学生（1・2 年生；英語レベル中級程度）対象； 原則、留学生の割合は全体の 3 分の 1 までとする； 履修希望者数が 35 を超す場合、履修者は、学年、学科、日本人学生と留学生数のバランスを考えつつ、第 1 週に選考される；履修登録済みであろうとなかろうと、初回の授業に参加していない学生は選考から外れ、したがって履修することはできない This course reviews Japanese history from the mid-1800s to the 1970s. During this period, Japan developed from a semi-feudal, semi-centralized entity to a unified modern nation-state; but in the process of modernization, Japan transformed itself into an imperialist power outwardly; inwardly, it struggled to

	deal with two contradictory political and social dictates – the need for authoritarian control and aspirations of liberalism. After the defeat in WWII, Japan evolved through further transformation into a richer, and more democratic, more liberal society, but the Japanese kept facing the same dilemma and various problems occurring from their continuous search for modernity. We will look at interrelated political, socio-economic, and intellectual-cultural developments during these periods and deepen our understanding of critical themes in modern Japanese history. 1 Introduction, Overview of the Syllabus 2 Opening of Japan 3 Meiji Restoration 4 Establishment of a Modern Political System 5 Meiji Society and Economy 6 Imperialism and Empire-Building 7 Midterm Exam 8 Taisho Democracy 9 1920-30s: Toward a Wartime Regime 10 Asia-Pacific War 11 Allied Occupation of Japan 12 Postwar Politics and Society 13 Final Exam 14 ALH1 Primary-Source Reading (portions of The Autobiography of Yukichi Fukuzawa) for Week #5; be prepared for class discussion 15 ALH2 Primary-Source Reading (writings on peace and security issues and citizens' activism) for Week #11; be prepared for class discussion Notes: Class Size: max. 35; Target: mainly Japanese students (freshmen and sophomores; English level = intermediate); (Ideal) Ratio of Japanese to International Students: 2: 1; In case that the number of students who would like to enroll in this class exceeds 35, the students who can take the class will be selected in Week #1, based on grade, major, and the ratio of Japanese to international students; whether pre-registered or not, those who do not attend the class on Day #1 and thus miss the selection procedure cannot join this class
授業時間外の学習 （予習・復習等）	リーディング課題がほぼ毎週あります。授業には、必ず課題をすべて終わらせてから参加して下さい。 There is a reading assignment almost every week. Students are expected to show up in class with all the homework done.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	参加度　15% クイズ　20%（2.5% x 8） 中間試験　30% 期末試験　35%

	クイズでは、リーディング課題および講義内容を理解しているか、語彙習得をしているかをチェックします。中間・期末試験では、設問に対し、英語のアカデミックライティングのルールに則り、パラグラフあるいはエッセイ形式で記述回答してもらい、講義の理解度・語彙習得度を測ります。内容のほか、英語のライティング力も評価されます。 Participation 15% Quizzes 20% (2.5% x 8) Midterm Exam 30% Final Exam 35% Quizzes are assigned to check students' understanding of the lectures and assigned readings and their acquisition of new vocabulary. With two exams, students need to demonstrate those in a paragraph-writing or multi-paragraph essay-writing form, following the basic rules of academic English writing. Not only the content but also their English writing ability will be evaluated.
オフィスアワー: 授業相談	glip@tufs.ac.jp
学生へのメッセージ	出席は「オプション」ではありません。学生は毎週授業に参加することが求められています。しかし、どのような理由であれ、2 回までの欠席は罰則なしで許されますが、3 回目以降は、欠席する毎にクラス成績から 10%減点します。また、6 分から 30 分までの遅刻は、2 回で欠席 1、30 分を超える遅刻は欠席 1 とみなします。もし 2 回とも正当な理由（例　事故、感染症、入院、宗教的祭日）での欠席であれば、講師に（準）公的文書を提出し、補習等の相談をして下さい。 Attendance is not an option; students are expected to always be in class. However, up to 2 absences are allowed for whatever reasons without a penalty; after that, a letter grade (10%) will be deducted from your course grade per absence. Also, if you show up 6-30 min. late twice, it will be counted as 1 absence; coming more than 30 min. late will be equivalent to 1 absence. If you are unable to attend class more than twice all for legitimate reasons – such as a car accident, disease infection, hospitalization, and religious holidays, you should provide the instructor with (semi-)official documentation and discuss make-up opportunities with her.
その他	n/a
キーワード	日本史、近代化・近代、明治、大正、昭和、帝国主義、帝国、戦争、占領、民主主義・民主化、憲法、平和・安保 Japanese history, modernization/ modernity, Meiji, Taisho, Showa, imperialism, empire, war, occupation, democracy/ democratization, constitution, peace/ security

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名：歴史の中の日本を知る２ 授業題目：英語で読む現代日本の短編小説		
英文授業科目名	Subject Title: Aspects of Japanese History 2 Course Title: Contemporary Japanese Short Stories in English		
開講年度	2024	**開講年次**	1, 2, 3
開講学期、日にち、時限	秋学期 Fall 月曜日 4 限 Fri. 4th period (14:20 – 15:50)	**開講場所**	東京外国語大学 研究講義棟 101 室
授業の方法	講義 Lecture	**単位数**	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	中上　紀 NAKAGAMI, Nori		
居室	東京外国語大学研究講義棟 4 階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	英語に翻訳され、海外に紹介された日本の現代短編小説を読み、語り、書くことで、以下に到達することを目標とします。 １）昭和後期以降の著者に探求された“日本”について英語で議論できる。 ２）翻訳され、海外に紹介されたことの意味を理論的および実践的に理解する。 ３）議論された内容に関連するテーマでエッセイや小説などの文章を執筆することが出来る。 Through reading, talking, and writing about contemporary Japanese short stories that have been translated into English and introduced to other countries, the course aims to achieve the following (1) To be able to discuss in English "Japan" as explored by authors from the late Showa period onward. (2) Understand theoretically and practically the meaning of what has been translated and introduced to the rest of the world. 3) To be able to write essays, novels, and other texts on themes related to what has been discussed.
前もって履修 しておくべき科目	n/a
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	n/a

教科書等	教科書はありません。 There is no textbook. 参考書/Reference book ISBN: 024131190X 書名: The Penguin book of Japanese short stories 著者名: introduced by Haruki Murakami ; edited and with notes by Jay Rubin 出版社: Penguin Books 出版年: 2019
授業内容と その進め方	この授業では昭和後期以降の日本の作家の短編小説を英語の翻訳で読み、文学の視点から現代日本の「今」を深く探求します。作品を読み味わうだけではなく、学生間での意見の交換、そして文章による表現や創作などのプロセスを大切にし、評価の要素としていきます。文学を通じて国際的な視点から「日本」を見つめ、新たな「面白い日本」を発見します。 第１回 授業の説明（人数によってはグループ分け含む）自己紹介等 講義：日本の文学を英語で読むことについて 第２回・読了したテキストについて講義をし、その後ディスカッションを行う。 ・議論されたことを元に指定されたテーマでエッセイを執筆。 ・使用するテキスト：「箱の中」　河野多恵子　（英訳：Jay Rubin） 第３回 ・読了したテキストについて講義をし、その後ディスカッションを行う。 ・議論されたことを元に指定されたテーマでショートショート小説を執筆。 ・使用するテキスト：「マーガレットは植える」　松田青子　（英訳：Angus Turvill） 第４回 ・読了したテキストについて講義をし、その後ディスカッションを行う。 ・議論されたことを元に指定されたテーマでエッセイを執筆。 ・使用するテキスト：「虫」青来有一（英訳：Paul Warham）① 第５回 ・読了したテキストについて講義をし、その後ディスカッションを行う。 ・議論されたことを元に指定されたテーマでショートショート小説を執筆。 ・使用するテキスト:「虫」青来有一　（英訳：Paul Warham）② 第６回 ・読了したテキストについて講義をし、その後ディスカッションを行う。 ・議論されたことを元に指定されたテーマでエッセイを執筆。 ・使用するテキスト：「日和山」佐伯一麦（英訳：David Boyd） 第７回 ・読了したテキストについて講義をし、その後ディスカッションを行う。 ・議論されたことを元に指定されたテーマでショートショート小説を執筆。 ・使用するテキスト：「ピンク」星野智幸（英訳：Brian Bergstrom）① 第８回 ・読了したテキストについて講義をし、その後ディスカッションを行う。 ・議論されたことを元に指定されたテーマでエッセイを執筆。 ・使用するテキスト：「ピンク」星野智幸（英訳：Brian Bergstrom）② 第９回 ・読了したテキストについて講義をし、その後ディスカッションを行う。 ・議論されたことを元に指定されたテーマでショートショート小説を執筆。 ・使用するテキスト：「砂糖で満ちてゆく」澤西祐典（英訳：Jay Rubin） 第10回 ・読了したテキストについて講義をし、その後ディスカッションを行う。 ・議論されたことを元に指定されたテーマでエッセイを執筆。 ・使用するテキスト：「物理の館物語」小川洋子（英訳：Ted Goossen）

	第 11 回 ・読了したテキストについて講義をし、その後ディスカッションを行う。 ・議論されたことを元に指定されたテーマでショートショート小説を執筆。 ・使用するテキスト：「山姥の微笑」大場みな子（英訳：水田宗子）① 第 12 回 ・読了したテキストについて講義をし、その後ディスカッションを行う。 ・議論されたことを元に指定されたテーマでエッセイを執筆。 ・使用するテキスト：「山姥の微笑」大場みな子 （英訳：水田宗子）② 第 13 回 ・読了したテキストについて講義をし、その後ディスカッションを行う。 ・議論されたことを元に指定されたテーマでショートショート小説を執筆。 ・使用するテキスト：「焔」津島佑子（英訳：Geraldine Harcourt） 第 14 回 ALH1 ALH(1) および ALH(2) については、次のいずれかを選択し、作業をしてください。(提出する文章の長さは 5～10 ページ程度となります) A) この授業で議論されている著者の活動および関連するさまざまな作品(映画やその他のフィクションまたはノンフィクション作品を含む)を調査し、レポートまたはエッセイを作成します。 B) 短編小説を自由に書く。(講義やディスカッションからアイデアを自由に取り入れてください) 第 15 回 ALH2 ALH(1) および ALH(2) については、次のいずれかの問題を選択し、作業をしてください。(論文は 5～10 ページ程度です) A) この授業で議論されている著者の活動および関連するさまざまな作品(映画やその他のフィクションまたはノンフィクション作品を含む)を調査し、レポートまたはエッセイを作成します。 B) 短編小説を自由に書く。(講義やディスカッションからアイデアを自由に取り入れてください) In this class, students will read short stories by Japanese authors from the late Showa period onward, translated into English, to deeply explore the “now” of contemporary Japan from a literary perspective. Students will not only read and savor the works, but also value the exchange of opinions among students and the process of written expression and creative writing, which will be a factor in evaluation. Through literature, students will look at “Japan” from an international perspective and discover a new “interesting Japan” 1 Explanation about this class (including grouping depending on the number of students) Self-introduction Lecture: Reading and writing Japanese literature in English 2 Lecture on the texts read, followed by discussion. The students will write an essay on a specified theme based on what has been discussed. “In the Box” Kōno Taeko, Translated by Jay Rubin 3 Lecture on the texts read, followed by discussion. The students will write a short story on a specified theme based on what has been discussed. The text to be used; “Planting” Matsuda Aoko, Translated by Angus Turvill 4 Lecture on the texts read, followed by discussion. The students will write an essay on a specified theme based on what has been discussed. The text to be used; “Insects” Seirai Yuichi, Translated by Paul Warham ① 5 Lecture on the texts read, followed by discussion. The students will write a short story on a specified theme based on what has been discussed. The text to be used; “Insects” Seirai Yuichi, Translated by Paul Warham ②

	6 Lecture on the texts read, followed by discussion. The students will write an essay on a specified theme based on what has been discussed. The text to be used; "Weather-Watching Hill"Saeki Kazumi, Translated by David Boyd 7 Lecture on the texts read, followed by discussion. The students will write a short story on a specified theme based on what has been discussed. The text to be used; "Pink" Hoshino Tomoyuki, Translated by Brian Bergstrom ① 8 Lecture on the texts read, followed by discussion. The students will write an essay on a specified theme based on what has been discussed. The text to be used; "Pink" Hoshino Tomoyuki, Translated by Brian Bergstrom ② 9 Lecture on the texts read, followed by discussion. The students will write a short story on a specified theme based on what has been discussed. The text to be used; "Filling Up with Sugar" Sawanishi Yuten, Translated by Jay Rubin 10 Lecture on the texts read, followed by discussion. The students will write an essay on a specified theme based on what has been discussed. The text to be used; "The tale of house of physics" Yoko Ogawa, Translated by Ted Goossen 11 Lecture on the texts read, followed by discussion. The students will write a short story on a specified theme based on what has been discussed. The text to be used; "The Smile of a Mountain Witch" Ohba Minako, Translated by Noriko Mizuta ① 12 Lecture on the texts read, followed by discussion. The students will write an essay on a specified theme based on what has been discussed. The text to be used; "The Smile of a Mountain Witch" Ohba Minako, Translated by Noriko Mizuta ② 13 Lecture on the texts read, followed by discussion. The students will write a short story on a specified theme based on what has been discussed. The text to be used; "Flames" Tsushima Yuko, Translated by Geraldine Harcourt 14 ALH1 Select one of the following issues for ALH1 and ALH2. (Your paper should be 5 to 10 pages.) A) Research the activities of any authors discussed in this class and various related works (including movies and other fiction or non-fiction works), and write a report or an essay. B) Write a short story freely. (Feel free to take some ideas from the lectures or discussions) 15 回 ALH2 Select one of the following issues for ALH1 and ALH2. (Your paper should be 5 to 10 pages.) A) Research the activities of any authors discussed in this class and various related works (including movies and other fiction or non-fiction works), and write a report or an essay. B) Write a short story freely. (Feel free to take some ideas from the lectures or discussions)
授業時間外の学習 （予習･復習等）	事前学習では課題文を読み、作者や関連作品について調べておきます。事後学習は、議論した内容をノートにまとめ、必要な情報を調べ追加します。また、授業で書いた文章を仕上げることを推奨します。テキストは授業終了時に提出となりますが、提出前に自分の記録用に写真を撮ることは可能です。以上、事前・事後学習で少なくとも合計 4 時間の学習が必要です。 For preview, students should read the assigned text and research the author and related works. For review, summarize the discussion in a notebook and research and add necessary information. It is also recommended that students finish the

	written text written in the class. The text must be submitted at the end of the class, but students may take pictures of the text for their own records before submission. The above requires a total of 4 hours at least of pre- and post-study.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	各セッションでのディスカッション（35%）と文章執筆への取り組み（35%）が評価の対象となります。文章（エッセイまたはショートショート）は、各クラスの最後に提出します。　ALH①②の取り組み（20%）も評価されます。学期末には、オプションで短編小説の提出があります。 The evaluation will focus on the discussion (35%) and writing efforts (35%) at each session. A written piece of work (essay or short short) will be due at the end of each class. ALH efforts will also be evaluated. (30%) There is an optional short story submission at the end of the semester.
オフィスアワー: 授業相談	glip@tufs.ac.jp
学生へのメッセージ	各授業では、英訳された日本の短編小説を１つ読み、ディスカッションします。人数が多い場合は、グループに分かれて議論します。取り上げる作品は授業の前週に配布しますので、必ず読んでから参加してください。また、毎回の授業で短編小説やエッセイを執筆します。その他、必要に応じてビデオ鑑賞なども取り入れる場合があります。 Each class will read and discuss one Japanese short story translated into English. If there is a large number of students, we will break into groups for discussion. The work to be discussed will be distributed the week before class, so please be sure to read it before participating. In addition, students will write a short story or essay in each class. Other activities such as video viewing may be incorporated as needed.
その他	n/a
キーワード	文学、社会、現代日本、書くこと Literature, Society, Contemporary Japan, Writing

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	三大学連携特別講義Ⅰ（Global Communication）／Inter-University Special Lecture Ⅰ (Global Communication)		
英文授業科目名	Inter-University Special Lecture Ⅰ (Global Communication)		
開講年度	2024 年度 FY 2024	開講年次	1-4 年次 1st - 4th grade
開講学期、日にち、時限	2 学期　(8/1, 2, 5) 各 1-3 限 2nd term (1, 2, 5 Aug.) 1-3 period	開講場所	小金井キャンパス 13 号館　1342 教室 Koganei Campus
授業の方法	講義及びディスカッション Lecture and Discussion	単位数	1 単位 1 credit
科目区分	３大学連携特別講義Ⅰ Multidisciplinary Courses		
開講学科・専攻	全学科対象 Open to all Courses		
担当教員名	堀切友紀子 HORIKRII, Yukiko		
居室	小金井 13 号館　503 室 Koganei-campus, Building No.13, 5th Floor, Room #503		
公開 E-Mail	該当なし N/A		
授業関連 Web ページ	該当なし N/A		

講義情報

主題および 達成目標	本コースでは、国際的な環境で活躍する人材となるべく必要なコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。場面やシーンに合わせたコミュニケーションの特徴や、コミュニケーションの背景にある様々な要因について、具体的な事例をもとにクラスメートとのディスカッションを通して考える。普段当たり前だと思っていることに対して疑問を持ち、その要因・課題を整理したうえで適切なコミュニケーション能力を身につけるための視点を獲得することを目指す。 本科目は、グローバル展開科目 Multidisciplinary Courses の英語による科目として開講され、また、三大学連携特別講義として東京外国語大学、電気通信大学の学生も履修することができる。 １）自身がとっているコミュニケーション行動の目的や種類、特徴、それらの影響要因について客観的に意識できるようになる。 ２）自身を取り巻く国際的視点を含む状況を適切に把握し、それにふさわしいコミュニケーションをとるために必要なことを自ら考えて実践できるようになる。

	主な目標（科目別目標一覧対応）： 国際感覚〇、知の開拓能力〇、コミュニケーション〇、プレゼンテーション〇 This course explores what is the appropriate and effective communication in a global society. By examining the communication used in specific social contexts, the students observe and analyze their own communication. The course includes group work and activities to share their thoughts and experiences. This course is offered in English as one of the Multidisciplinary Courses of the Global Integrated Studies, and is open to students from Tokyo University of Foreign Studies and the University of Electro-Communications. 1.To develop awareness of own communication including its purpose, variety, feature, and effect factors. 2. To develop the new perspective for understanding our global society Competency development: Global awareness, Intercultural communication skills, Presentation skills
前もって履修 しておくべき科目	該当なし N/A
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	該当なし N/A
教科書等	パワーポイントスライド及び配布資料 PPT slides and Handout in class
授業内容と その進め方	2024 年 8 月 1 日(木)　1―3 限 (9:00-14:30) 第 1 回　　オリエンテーション　コミュニケーションとは 第 2 回　　コミュニケーション(1) 種類・スタイル 第 3 回　　コミュニケーション(2) 影響要因, 自己理限 2024 年 8 月 2 日(金)　1―3 限(9:00-14:30) 第 4 回　　意識化 (1) 客観的把握 第 5 回　　意識化 (2) 価値観、カテゴリー化 第 6 回　　異文化コミュニケーションスキル 2024 年 8 月 5(月)　1―2 限(9:00-12:00) 第 7 回　　プレゼンテーション 第 8 回　　まとめ 1-3 period (9:00-14:30) of 1 August 2024 (Thursday) 1. Orientation: What is Communication? 2. Communication #1 -Variety and Style 3. Communication #2 -Effect Factors, Self-understanding

	1-3 period (9:00-14:30) of 2 August 2024 (Friday) 4. Consciousness #1 -Objective Comprehension 5. Consciousness #2 -Values, Categorization 6. Intercultural Communication Skills 1-2 period (9:00-12:00) of 5 August 2024 (Monday) 7. Presentation 8. Summary
授業時間外の学習 （予習・復習等）	授業時間 15 時間や課題エッセイ・プレゼンテーション準備時間計 30 時間を含めた、本学の標準時間数に準ずる予習復習を行うこと You are to spend 15 hours in the class, and 30 hours in completing the essay task and presentation preparation.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	授業でのパフォーマンス(40%)、プレゼンテーション(40%)、課題 (20%)を総合的に判断する。 Grades are given based on 40% on class performance, 40% on oral presentation, and 20% on reports.
オフィスアワー： 授業相談	メールにてアポイントを取ってください。(horikiri@go.tuat.ac.jp) Please make an appointment by email. (horikiri@go.tuat.ac.jp)
学生へのメッセージ	積極的にディスカッションに参加してください。 Active participation in discussion is expected in each class.
その他	特になし N/A
キーワード	コミュニケーション、客観的把握、国際感覚、多文化社会 Communication, Objective comprehension, Global awareness, Multicultural Society

授業科目名 Course Title	上級生物学		
英文授業科目名 Course Title in English	Advanced Biology		
開講年度 Academic Year	2024	**開講年次** Year of Study	1～3
開講学期、日にち、時限 Term	第 3 学期 /　3Term 月／Mon.　4	**開講場所** Faculty offering the course	東京農工大学府中キャンパス　第二講義棟 11 教室
授業の方法 Teaching Styles	Lecture	**単位数** Credits	2
科目区分 Category	教養科目（Liberal Arts and Fundamental Studies）		
開講学科・専攻 Cluster / Department	全学科（All departments）		
担当教員名 Instructor(s)	古谷哲也（農学部共同獣医学科）　Tetsuya Furuya Sabine Gouraud　（国際基督教大学） 安村友紀（グローバル教育院）　Yuki Yasumura,		
居室 Office	新 4 号館 251 室　（古谷）、グローバル教育院　（安村） New building 4-Room 251, Fuchu Campus (Furuya), 13th Building, Room507, Koganei Campus (Yasumura)		
公開 E-Mail Email	furuyat@cc.tuat.ac.jp , yuki-yasumura@go.tuat.ac.jp		
授業関連 Web ページ Course Website			

講義情報
Course Information

主題および達成目標 Course Goals and Objectives	1. 細胞や分子レベルで生命活動を理解し、近代のバイオテクノロジーや分子生物学の応用技術の発展に関する知識を身につける。 2. 生物、化学、医学、獣医学に関係したトピックについて英語で理解し、自身の興味を持つトピックについて英語で説明できる。 科目別目標： 国際感覚、知の開拓能力、コミュニケーション、プレゼンテーション 1. To gain a fundamental understanding of ‘life’ at the cellular and molecular levels and to apply such knowledge in learning biotechnology and modern molecular techniques 2. To understand updated interdisciplinary biological topics relating to chemistry, physics, medicine and veterinary medicine in English, and to be able to describe a topic of own interest in English

	Competency development: Global awareness,　Innovative Thinking, Communication Skills, Presentation skills
前もって履修 しておくべき科目 Prerequisites	特になし None
前もって履修しておくこ とが望ましい科目 Recommended Course(s) / Subject(s)	特になし None
教科書等 Course Materials (Required Textbooks, Materials, etc.)	毎回講師が作成した教材を配布する。 キャンベル生物学」第 11 版。Campbell & Reece　“Biology”　11th ed. 「細胞の分子生物学」第 6 版。Albert et al.　“Molecular Biology of the Cell”
授業内容と その進め方 Course Outline	本科目では、生物学基礎とその応用技術を講義、演習、ディスカッションを通して学び、英語の知識と科学の知識を実践的に活用して分子生物学の理解と科学的思考を深めることを目指します。授業では細胞の生命活動、生命エネルギーの獲得、生物の進化、ならびに遺伝情報伝達と利用の生物学的仕組みを分子レベルで解説します。そして、それぞれの現象が、日常生活を支える先端技術や医学に応用されている実例を学び、そのメカニズムを理解します。 本科目は、教養教育グローバル展開科目 Multidisciplinary Courses の 1 科目として開講され、留学プログラム等に参加する留学生も履修できます。 In this course for fundamental biology and technological applications, it is required to apply the knowledge of English language and science with the aim to deepen the understanding of molecular biology and develop scientific thinking skills. We will learn the structure and function of cells, the mechanism of energy production in cells, evolution of organisms and the transfer and utilization of genetic information from nucleic acids, especially DNA, to biomolecules. We will then learn how such scientific phenomena and the knowledge are applied in biomedical technologies that support our traditional, modern and future lives. This lecture course includes interactive classes, discussion sessions and opportunities for presentation. This course is offered as part of the Multidisciplinary Courses in Global Integrated Studies of the Liberal Arts and Fundamental Studies, and is also open to international students of STEP (Short Term Exchange Program).

1	エネルギー（1）。生命体のエネルギー源としての糖と脂質。 【演習】生命エネルギーの獲得方法の多様性を考える	1. Carbohydrates, lipids, and chemical energy that sustains life. 【Exercise】Thought problems on diverse strategies for acquisition of energy to sustain life
2	エネルギー（2）。無気呼吸と発酵、有気呼吸のしくみ。 【演習】アルコール分解酵素の遺伝的多様性と食性の関連を探る	Mechanisms of cellular respiration and fermentation 【Exercise】Genetic variation in alcohol dehydrogenase and its relationship with feeding behavior of organisms

	3	多様性と進化（1）。遺伝子の核酸配列の保存と変異による遺伝的多様性 【演習】保存領域のアミノ酸アライメントと系統樹の作成を実践し、異種間の遺伝子レベルの変容と関係性を調べる	Genetic conservation of DNA sequences and genetic variations caused by mutations 【Exercise】Alignments of conserved amino acid sequences and construction of phylogenetic trees to elucidate genetic variations and their relationships
	4	多様性と進化（2）。遺伝的多様性の獲得と喪失 【演習】系統樹から導き出される進化の歴史を考える	Acquisition and loss of genetic diversity 【Exercise】Evolutionary changes deduced from phylogenetic trees
	5	光合成（1）：光エネルギーから化学エネルギーへの変換 【演習】光化学系の進化を考える。酸素発生型の光合成の優位性はどこにあるのか。	Conversion of light energy to chemical energy through photosynthesis 【Exercise】Evolution of various photosystems. What are the advantages of oxygenic photosynthesis?
	6	光合成（2）：エネルギーの貯蔵のしくみと食糧生産。 【演習】品種改良（人為淘汰）を遺伝的多様性の観点から考える	Storage of energy as the end result of photosynthesis and its role in food production 【Exercise】What changes in genetic diversity are observed due to artificial selection
	7	細胞組織：健康な状態と病気の状態におけるオルガネラの構造と機能。 そしてそれに関連する最先端技術。 【演習】様々な生体試料に含まれる特定のタンパク質をどのように可視化するか	Cellular Organization: organelles' structure/function in health and disease and the cutting-edge techniques behind it. 【Exercise】How to visualize specific proteins in various kinds of biological specimens?
	8	細胞膜：健康な状態と病気の状態における細胞膜の構造と機能。細胞膜のバイオテクノロジーにおける重要性。 【演習】膜輸送体は、がん治療の新薬の標的とできるか	Cellular membranes: structure/function in health and disease, their importance in biotechnology. 【Exercise】How can "membrane transport" be used as a target for a new drug against cancer?
	9	健康な状態と病気の状態における細胞シグナル伝達、シグナリング伝播経路の複雑さを解明するために使用された伝統的および新規の方法。 【演習】変異たんぱく質の利用は、細胞シグナル伝達機構の解明にどのように役立ったか	Cellular Signaling in health and disease, traditional and novel methods used to unravel the complexity of signaling pathways. 【Exercise】How can mutant proteins help understand intracellular signaling mechanisms?
	10	細胞分裂とその制御、性細胞融合プロセス 【演習】細胞が癌化するメカニズムにはどのようなものがある	Cell division and its control, sexual reproduction process 【Exercise】What are the mechanisms which make cells cancerous? Future

	か？今後、遺伝子を伝えて行く際の課題：遺伝病、遺伝的障害、出産率	challenges in passing genes to our offspring: genetic diseases, genetic disorders, birth rates
11	遺伝子とは？遺伝情報の複製と修復の仕組みと、がんや老化における細胞機能異常の発生機構。 【演習】ウイルスにおける突然変異と抗原変異、iPS 細胞技術の発見とその潜在性、ワクチン技術の進歩と解決すべき問題	What genes are made of? Mechanisms of gene replication and repair. The mechanisms by which cell function abnormalities occur in cancer cells and aging. 【Exercise】Mutations and antigenic variations in viruses, discovery of iPS cell technology and its potential, progress in vaccine technology and problems to be solved
12	遺伝子の発現メカニズム:RNA 転写、蛋白質翻訳、RNA と蛋白質の転写と翻訳後の修飾 【演習】遺伝子から遺伝子産物ポリペプチド配列を得る方法。ポリペプチド配列から遺伝子機能に関する情報を得る方法。	Gene expression mechanism: RNA transcription, protein translation, post-transcriptional and post-translational modification of RNA and proteins 【Exercise】How to obtain the gene product polypeptide sequence from a gene. A method for obtaining information about gene function from polypeptide sequences.
13	遺伝子発現の制御：タンパク質の転写、翻訳、安定性、局在など、多段階における制御 【演習】異なる組織間（がん細胞を含む）、あるいは、発生・分化中組織における遺伝子発現変化の情報をどのように取得するか？（新世代シークエンス、定量PCR、マイクロアレイ等）と、それらの大規模データ分析方法。	Regulation of gene expression: Control at multiple stages such as protein transcription, translation, stability, and localization 【Exercise】The methods to obtain information on gene expression changes between different tissues (including cancer cells) or in developing and differentiating tissues (new generation sequencing, quantitative PCR, microarrays, etc. and their large-scale data analysis methods) and to analyze these massive-scale data.
14	指定されたトピックについての学生発表（1）	Presentations by students on specified topics part 1
15	指定されたトピックについての学生発表（2）	Presentations by students on specified topics part 2

授業時間外の学習 **（予習・復習等）** Extended study hour outside class	30 時間の授業と 4 時間程度の発表準備に加え、オンライン（SIRIUS-LMS）に掲載された教材等を使って本学の標準時間数に準ずる予習・復習を行うこと。 In addition to 30 hours you spend in the class and 4 hours in preparing your presentation, you are recommended to prepare for and revise the classes spending the standard

	amount of time as specified by the University, using the lecture handouts available from SIRIUS-LMS.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む） Grading Policy	45% 演習課題（分析問題や小レポートなど、各担当教員が設定） 20% 授業参加（ディスカッションへの参加など） 35% 発表 上記を基準として総合的に判断する。 原則 8 割の出席を必要とする。 Grades are given based 45 % on exercise tasks/written reports, 20 % on participation and contribution, 35% on presentaion. Note that more than 80 % attendance is required to complete this course.
オフィスアワー： 授業相談 Office Hours for Study Consultation	授業の前後で質問を受け付けるほか、e-mail で予め連絡を入れてくれれば、随時受け付ける。（古谷）furuyat あっと cc.tuat.ac.jp （安村）fy6808 あっと go.tuat.ac.jp Please ask questions before or after the class, or email to make appointments. （T. Furuya）furuyat(at)cc.tuat.ac.jp （Y.Yasumura）ft6808(at)go.tuat.ac.jp
学生へのメッセージ Message	生物学を楽しんで欲しい。Enjoy Biology!
その他 Others	英語で授業を行う。 Lectures will be conducted in English, and are open to international students.
キーワード Keyword(s)	細胞、細胞小器官、生体分子、エネルギー代謝、光合成、遺伝子、タンパク質合成 Cell, Organelles, Biological molecules, Energy metabolism, Photosynthesis, Genes, Protein synthesis

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	共生社会について考える		
英文授業科目名	Perspective of the Humanities and Social Science on *"Kyosei Society"*		
開講年度	2024 年度	開講年次	1～3 年次
開講学期、日にち、時限	3 学期/ 3Term, 土/ Sat. 2,3	開講場所	
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	共通科目		
開講学科・専攻			
担当教員名	吉田央・大倉茂・甲田菜穂子・新井祥穂・草処基・山田祐彰・及川洋征・川端良子 Hiroshi YOSHIDA, Shigeru OHKURA, Naoko KODA, Sachiho ARAI, Motoi KUSADOKORO, Masaaki YAMADA, Yousei OIKAWA, and Yoshiko KAWABATA		
居室			
公開 E-Mail			
授業関連 Web ページ			

講義情報

主題および 達成目標	本科目は、グローバル展開科目 Multidisciplinary Courses の英語による科目として開講され、また、三大学連携特別講義として東京外国語大学、電気通信大学の学生も履修することができます。 本授業は、土曜日の2・3限を予定しています。 現代社会において持続可能な発展を実現するために重要となる「共生」につい て、その概念と「共生社会」実現の条件と課題を考察します。具体的には、「共生」J に関する理論的な検討を踏まえ、国内外における持続可能な社会の構築に向けた取組みに関する事例から、「共生社会」実現に向けた現状と課題を議論します。「共生」とは一体どういうものなのか、という理念の追求とともに、国内外における共生概念の実践例を提示しながら、共生社会のありようを考えていきます。 達成目標：複眼的視点から現代社会の諸問題と未来を考える意識が向上し、その洞察力の醸成を目標とします。 主な目標（科目別目標一覧対応）：国際感覚　知の開拓能力　コミュニケーション　プレゼンテーション **授業は、土曜日の2・3限を予定しています。** **以下の場合は開講を中止します。** **・受講希望者数が 3 人以下の場合** **・対面式開講ができなくなった場合** This course is offered in English as one of the Multidisciplinary Courses of the Global Integrated Studies, and is open to students from Tokyo University of Foreign Studies

	and the University of Electro-Communications. Attaining sustainable development in our current society may require “Kyosei,” or symbiosis as an effective way of thinking. This course is intended to inquire into the concept of Kyosei, and necessary conditions and challenges for establishing Kyosei society. The class begins with a theoretical inquiry into Kyosei, followed by discussions on the present situations and challenges toward Kyosei society through a series of case studies of current efforts for the construction of sustainable society in Japan and abroad. What is “Kyosei ?” The class begins with this simple but difficult question. While pursing the concept and idea of Kyosei, we inquire into how Kyosei works in our current society and what is required for the establishment of Kyosei society. An inquiry into Kyosei is carried out by referring to several experiences. The ultimate goal of this course is to improve the ability to think about various issues which our society has been currently faced with and future perspectives from multiple points of view and to deepen insights to understand such issues. Competency development: Global awareness, Ability to Explore Knowledge, Communication skills, Presentation skills. This class will be held in the second and third periods on Saturday. This class will be canceled when the number of participants is less than 4.
前もって履修 しておくべき科目	なし Nothing in particular
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	なし Nothing in particular
教科書等	講義担当者が担当回で適宜、資料を配布および参考文献を提示 No specific text book is used. Some materials will be distributed in class while other references will be announced. Some materials will be distributed in class while other references will be announced.
授業内容と その進め方	本講義は以下の 2 部から構成されます。 第 1 部では、人文社会科学の今日の総合的視点を「共生」と位置づけ、そこから現代社会が直面している課題を浮き彫りにし共生社会の必要性ならびに共生社会構築に必要となる条件について、日本社会での現状と課題を提示しつつ、多面的側面から議論します。

	第 2 部では、自然と人間の共生、とりわけ現代社会における農業の役割と農学的視点を踏まえ、発展途上国農村部における持続可能な地域社会のあり方について、農工大が実施してきた JICA 草の根プロジェクトを含む事例を題材に議論します。 The course is composed of two parts. In part 1, viewing Kyosei as a contemporarily meaningful and comprehensive perspective of humanities and social science, we attempt to identify and assess present situations and challenges that society has been currently faced with and inquire into the needs of and conditions for the establishment of Kyosei Kyosei society through a multidisciplinary approach. In part 2, first, focusing on Kyosei between nature and humans, we examine the role of agriculture in our current society and the examples of Kyosei in agriculture. Second, given the viewpoint above, we discuss the way in which sustainable rural development has emerged in developing countries, through a series of case studies of the rural development projects conducted by faculty members of Tokyo University of Agriculture and Technology. ＜第1部＞ 第1回目　共生社会の経済・環境政策①　（吉田） 第2回目　共生社会の経済・環境政策②　（吉田） 第3回目　共生社会と環境正義①　（大倉） 第4回目　共生社会と環境正義②　（大倉） 第5回目　動物介在介入①（甲田） 第6回目　動物介在介入②（甲田） ＜第 2 部＞ 第7回目　「共生」アプローチに基づく社会研究のケーススタディ　（新井） 第8回目　現代社会における農業の役割、持続可能な発展に向けて②（草処） 第9回目　ベトナム・バックマー国立公園緩衝地帯における農民参加型木炭多用途利用技術の普及（及川） 第 10 回目　ブラジル・アマゾンにおける遷移型アグロフオレストリーの普及　（山田） 第 11 回目　ウズベキスタン・シルクロードにおける養蚕技術の普及と女性のエンパワメント（川端） 第 12 回目　生物学と共生（仮題） 第 13～15 回目　学生による発表と総合ディスカッション 〈Part 1〉 1. Economic and Environmental Politics on ″Kyosei Society″ ① (Yoshida) 2. Economic and Environmental Politics on ″Kyosei Society″ ② (Yoshida) 3. Kyosei Society and Environmental Justice ① (Ohkura) 4. Kyosei Society and Environmental Justice ② (Ohkura) 5. Animal Assisted Intervention ① (Koda) 6. Animal Assisted Intervention ② (Koda) 〈Part 2〉

	7. How do we conduct a social research, using case studies based on “Kyosei” approach? (Arai) 8. Economic Thinking and “Kyosei Society” (Kusatokoro) 9. Participatory extension of multipurpose use of charcoal in the buffer zone of Bach Ma National Park, Vietnam (Oikawa) 10. Dissemination of Successional Agroforestry in the Brazilian Amazon (Yamada)11. Transfer of high quality Japanese sericulture technology and empowerment of women in Silk Road country, Uzbekistan(Kawabata) 12. (TBD) 13 – 15. Presentation by Students and Final Discussion
授業時間外の学習 （予習・復習等）	授業時間 30 時間とディスカッション発表準備時間 4 時間程度に加え、各担当者が提示する閲覧可能な講義資料や参考書を参照し、本学の標準時間数に準ずる予習と復習を行うことが必要です。 This course carries 2 credits. In addition to 30 hours you spend in the class and 4 hours in preparing your presentation at every discussions, you are recommended to prepare for, and revise, the classes spending the standard amount of time as specified by the University for each class, using the lecture handouts available and the references specified by every lecturers.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	授業内でのデイスカッション（40%）ならびに課題レポート及びそのプレゼンテーション（60%）によって評価します。 Participation in discussion (40%), and Term paper and its presentation in class (60%)
オフィスアワー: 授業相談	授業時間後に質問を受け付けます。 After class
学生へのメッセージ	なし Nothing in particular
その他	なし Nothing in particular
キーワード	共生、共生社会、持続可能な発展、持続可能な地域社会、発展途上国農村・農業開発、国際協力 Kyosei, Kyosei society, Sustainable development, Sustainable local society, Rural and agricultural development in developing countries, International cooperation

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	Water Resources Management		
英文授業科目名	Water Resources Management		
開講年度	2024 年度	開講年次	1～4
開講学期	2 学期/2Q 9/17（火）,18（水）	開講場所	2 講-22
授業の方法	講義/Lecture	単位数	1
科目区分	専門科目		
開講学科・専攻			
担当教員名	加藤亮/Tasuku KATO		
居室	2N303		
公開 E-Mail	taskkato@cc.tuat.ac.jp		
授業関連 Web ページ			

講義情報

主題および 達成目標	Rice production has an important role for sustainable development and food security in ASEAN countries. In this course, demand and supply aspects on rice irrigation planning and water resources management are discussed. Especially, Japanese rice production is discussed. 水田農業の灌漑排水に関する基礎的な知見について理解することができる。 ディプロマポリシーについては下記参照のこと Obtain basic knowledge of the irrigation and drainage system in paddy field Corresponding criteria in the Diploma policy: See the curriculum maps. https://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/campuslife/policy/
前もって履修 しておくべき科目	特になし Nothing
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	特になし Nothing
教科書等	Google Classroom にて事前に PDF 等で配布します Provided by handout. Water in Crisis (1993) Peter H. Gleick ed., Oxford University Press, Water for Food Water for Life, A comprehensive Assessment of Water Management in Agriculture,(2007) David Molden ed., IWMI, Routledge Introduction to Hydrology(2002) W.Viessman Jr., G.L.Lewis, Pearson education, Advanced paddy field engineering.（1999）Miztani M.: Hasegawa S., Koga K., Goto A., Murty V.V.N.(eds) JSIDRE,

授業内容と その進め方	1 日本の水田農業についての概略 1 Class orientation and introduction of paddy fields in Japan 2 灌漑排水の世界的な問題 Global issues in irrigation and drainage 3 水収支と水文学的な分析方法 Water balance and hydrological analysis 4 水資源開発について Water resources development 5 灌漑システム及び水田の多面的な機能 Irrigation system and Multi-aspects on paddy fields 6 流域管理について Watershed management and planning 7 水，食料，エネルギーの安全保障 Water Food Energy security 8 最終試験もしくはレポート Final examination
授業時間外の学習 （予習・復習等）	15 時間の講義を行います，予習復習はそれぞれ 15 時間かかります。 15hr is provided by lecture, 15hr for pre-study, and 15hr post study
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	講義の各回で簡単な小テスト(40%)を実施し，期末試験（またはレポート）(60%)で評価します。 Small quiz or comment sheet in every class(40%), Final exam or report (60%)
オフィスアワー： 授業相談	メールにて連絡ください。通常，夕方（5 時から 6 時）はあいてます。 Daily 17:00-18:00, required to book by e-mail, please
学生へのメッセージ	英語開講です
その他	
キーワード	水田，灌漑計画，水文学，水収支，水質 Paddy field, Irrigation plan, Hydrology, Water balance, Water quality

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	土と水		
英文授業科目名	Soil and Water		
開講年度	2024 年度	開講年次	2～3
開講学期、日にち、時限	3 学期/ 3Term, 月/ Mon. 5・金/Fri. 3	開講場所	TBA
授業の方法	Lecture	単位数	1
科目区分			
開講学科・専攻	Eco-region Science		
担当教員名	斎藤 広隆　Hirotaka Saito		
居室	3-309		
公開 E-Mail	hiros@cc.tuat.ac.jp		
授業関連 Web ページ	http://web.tuat.ac.jp/~vadose		

講義情報

主題および 達成目標	Learn about the interaction of soil and water and its concepts, measurement method, and the basis of evaluation methods. Especially the lecture focuses on water retention of soil and movement of water in the soil. Students will learn that knowledge can be applied to agricultural issues, irrigation management, water resource conservation, soil/groundwater pollution prevention, and remediation. Please refer to the Curriculum map of TUAT at https://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/campuslife/policy/
前もって履修 しておくべき科目	N/A
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	Basic soil science
教科書等	Course materials will be provided.
授業内容と その進め方	1. Soil Physical Properties 2. Soil and Water 2. Soil Water Potential 3. Soil Water Retention 4. Saturated Water Flow Ⅰ 5. Saturated Water Flow Ⅱ 6. Unsaturated Water Flow Ⅰ 7. Unsaturated Water Flow Ⅱ 8. Infiltration, Redistribution, and Evaporation 9. Agriculture and Soil Physics

	10. Environmental Problems
授業時間外の学習 （予習・復習等）	Comply with the standard hours based on the university rules.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	Homework/Exercise 40%, Final exam or report, 60%
オフィスアワー： 授業相談	By appointment only
学生へのメッセージ	Please download the materials from Google Classroom. 授業は毎回配布する資料を基に進めます。資料は Google classroom から各自ダウンロードしてください。 課題を多く出します。復習を兼ねてしっかり取り組んでください。
その他	Lecture will be give every Monday at 4:30 pm and every Friday at 1:00 pm in 3rd semester. If there are less than two students registered, the course will be cancelled.
キーワード	Unsaturated Soil, Soil Physics, Water Flow, Soil Contaminants

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	途上社会における人口事情学		
英文授業科目名	The Study on Population Affairs in Developing Societies		
開講年度	2024 年度	開講年次	1～4
開講学期、日にち、時限	２学期集中講義 9/24(火),25(水)　２限～5 限	開講場所	２Ｎ－５０９教室
授業の方法	講義＋ＡＬ型 Lecture + AL	単位数	1
科目区分	世界教養科目 Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻			
担当教員名	聶　海松 Haisong NIE		
居室	東京農工大学農学部２N-508		
公開 E-Mail	nie-hs@cc.tuat.ac.jp		
授業関連 Web ページ	該当なし Not Applicable（N/A）		

講義情報

主題および 達成目標	グローバルな視点で途上社会における人口および環境問題に関する課題の認識を行い、積極的な議論を通して知見や課題を共有することを目的とする。 持続可能な開発を効果的に実現する人口動態に注目しつつ、途上諸国・地域、特に中国の人口および環境問題に関する調査研究について学習する。本科目は、講義のほかビデオ視聴、テーマを選択して一人ずつのプレゼンテーション、各国の事情に関するディスカッションを取り入れている。 １．経済と人口問題に焦点を当て、持続可能な開発と地域計画に関して理解する。 ２．選択したテーマについてまとめ、プレゼンテーションすることができる。 ３．一か国の事例に対して、自国での状況や自分の考えを発表し、積極的に議論することができる。 主な目標（科目別目標一覧対応） 異文化理解◎、国際感覚◎、コミュニケーション◎、自主性・自律性○、プレゼンテーション○ This course aims to recognize issues related to population and environmental problems in developing society from a global perspective and to share knowledge and issues through active discussion. To learn about researching studies on developing countries and regions, especially China's population and environmental problems while focusing on population dynamics to effectively realize sustainable development. 1. To understand sustainable development and regional planning with a focus on economic and population problems. 2. Enable to summarize and present the selected topics. 3. Enable to present the situation with one’s own ideas and have positively discussions

	Main goals/targets (Corresponding to targets list by course) Intercultural Understanding ◎, International sense ◎, Communication ◎, Autonomy ○, Presentation ○
前もって履修 しておくべき科目	該当なし Not Applicable（N/A）
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	該当なし Not Applicable（N/A）
教科書等	必要に応じて資料を配布 Distribute documents as necessary
授業内容と その進め方	１．世界人口に関する基礎的知識の取得： （1）世界人口の動態 （2）人口問題と環境、食糧問題 （3）途上地域における人口管理と家族計画 ２．人口データを読み解くためのスキル取得： 国連サイトから人口データを利用する方法を学ぶ。 ３．事例紹介と課題認識： 中国における人口問題、高齢化について紹介する。その後、受講者の国の事情を互いに紹介、議論する。 ４．テーマに沿ったプレゼンテーションと議論： 国連人口基金（UNFPA)が発行する「世界人口白書」から選んだテーマについて発表と議論をおこなう。 1. Acquisition of basic knowledge on world population: (1) Dynamics of the world population (2) Population Problems and the Environment, Food Problems (3) Population management and family planning in developing regions 2. Skill acquisition on purpose of reading population data: Learn how to use population data from the United Nations site. 3. Case introduction and issue recognition: Lecture on population problems and aging in China After that, introduction and discussion between audiences on circumstances of the countries of the students is required. 4. Presentation and discussion on topics: Presentation and discussion on the topics selected from the state of world population that were developed under the auspices of the UNFPA Division for Communications and Strategic Partnerships.
授業時間外の学習 （予習・復習等）	１単位の科目とする。 授業時間（16 時間）、5 ページのレポートおよび発表用パワーポイント作成時間（5 時間）に加え、授業で扱うテーマに関して母国の事情や自分の考えを発表するための準備として情報収集を行い本学の標準時間数に準じる予習復習を行うこと。 This course carries 1 credit. In addition to 16 hours you spend in the class and 5 hours

	in completing 5- page report assignment and ppt slides for presentation, you are recommended to prepare for, and review, the classes spending the standard amount of time as specified by the University for each class. The said 5-page report is required to describe impressions and recommendations relevant to the lecture content.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	発表の評価（40%）、１回の課題（レポート５ページ）の評価（40%）、授業や議論への参加度（20%）を総合的に判断する。 Grades are given based 40 % on presentation, another 40% on 5-page report and 20% on contribution during the classes.
オフィスアワー： 授業相談	以下のメールで質問等を受け付けます。 nie-hs@cc.tuat.ac.jp If you have any question, please feel free to contact me. nie-hs@cc.tuat.ac.jp
学生へのメッセージ	受講者の様子を配慮して、より受講者にとって楽しく有意な講義となるため、内容の一部変更も伴うことがあります。 Considering the situation and level of the students, part of the contents may be changed to become a fun and beneficial and meaningful lecture for the students.
その他	該当なし Not Applicable（N/A）
キーワード	人口動態、人口問題、食糧、環境破壊、人口管理、人口移動、高齢化 Population dynamics, population issues, food, environmental destruction, population management, population migration, aging

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	森林資源とバイオマス		
英文授業科目名	Forest Resources and Biomass		
開講年度	2024 年度	開講年次	1,2,3,4
開講学期、日にち、時限	2 学期　2nd term 9/19(木)、20（金）	開講場所	
授業の方法	フィールド・ツアー	単位数	1
科目区分	３大学連携特別講義Ⅰまたは Ⅱ Multidisciplinary Courses		
開講学科・専攻	東京農工大学農学部環境資源科学科		
担当教員名	安藤恵介/ ANDO Keisuke、横森 佳世/ YOKOMORI Kayo、堀川 祥生/ HORIKAWA Yoshiki		
居室	1-317, 1-318		
公開 E-Mail	andok@cc.tuat.ac.jp		
授業関連 Web ページ			

講義情報

主題および 達成目標	森林資源やバイオマスに関する概論として位置づけられる AIMS の授業です。森林資源とバイオマスについての 1 泊 2 日のフィールド・ワークとして行います。日本の木材利用・林産・木材工学・木材加工・木質構造に関して理解を深めるため、木造住宅の工場、歴史的な木橋、古民家などを見学します。また、富士山周辺の森林や忍野八海、富士山世界遺産センター等を訪れ、富士山や森林等について歴史や自然について学びます。 到達目標 日本の木材利用、木材加工、木質構造について理解し、説明できる。 現在の工業化住宅と伝統的な古民家を比較検討し、木橋の構造などを含め、木質構造を理解し、説明できる。 富士周辺の森林の利用や生態的な機能について理解し、説明できる。 本科目のディプロマ・ポリシーの観点： 本学 HP（三つのポリシー）のカリキュラムマップを参照してください。 https://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/campuslife/policy/ This course is a 2-day field trip on forest products and timber engineering (wood processing and wooden construction). We will visit a factory of modern housing company, an ancient wooden bridge Saruhashi(monkey bridge), constructed 1300 years ago, forests at Mt. Fuji, Oshino Hakkai, and the Fujisan World Heritage Center. Expected Learning Understanding utilization of Japanese forest resouses and forest products.

	Traditional and morden Japanese wooden housing. Anceian and histrical wooden bridge. Forest in Mt.Fuji aria. Mt.Fuji as a world heritage. Corresponding criteria in the Diploma policy: See the curriculum maps. https://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/campuslife/policy/
前もって履修 しておくべき科目	特になし
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	特になし
教科書等	フィールド・ツアー前に配布します。 Course notes will be provided before the field trip.
授業内容と その進め方	スケジュール(予定) 9 月 19（木）、20 日（金）の２日間 1 日目　府中キャンパス 8:30 出発 1）工業化住宅の工場見学（一条工務店上野原市工場） 2）猿橋（約 1300 年前に建設）見学 3）富士山世界遺産センター見学 2 日目 4）忍野八海散策 5）富士山周辺の森林散策 府中キャンパス　17:00 到着（交通事情により遅くなることがあります） 19-20, Sep 1-day, Departure 8:30 (Fuchu Campus) 1) Visiting a factory of a modern Japanese housing company (Ichijo Komuten). 2) Visiting an ancient wooden bridge Saruhashi(monkey bridge), constructed 1300 years ago. 3) Visiting the Fujisan World Heritage Center. 2-day 4) Visiting Oshino Hakkai. 5) Visiting the forest near Mt. Fuji. Arrive at 17:00(depending on the traffic) at Fuchu Campus.
授業時間外の学習 （予習・復習等）	授業時間や課題作成に要する学習時間に加え、配布資料や参考文献を活用して本学の標準時間数に準ずる予習および復習を行うこと。
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	フィールド・ツアー後のレポート課題により評価（100%） Report submission of field (100%)
オフィスアワー： 授業相談	随時　事前にメールで問い合わせてください

学生へのメッセージ	AIMS の学生と一緒に見学旅行・宿泊し、懇親を深め、英会話能力の向上を図ります。留学生とともに富士山に行こう！ Students will tour and stay with AIMS international students to get to know each other better and improve their English conversation skills.　Let's go to Mt. Fuji!
その他	プログラム内容は変更になる可能性があります。 交通費と宿泊費等で最大１万円程度かかります。 標高 2400m 付近を散策しますので、歩きやすい靴を履いてきてください。 温泉に入りますので、ハンドタオルを用意してください。 Program details are subject to change. It will cost up to 10,000 yen for your accommodation. Please wear comfortable walking shoes as we will be walking at an altitude of around 2,400 meters. Please bring a hand towel as we will take a bath in a hot spring. 履修人数に制限があるため５月末に抽選を行います。 Due to the limited number of students enrolled, a lottery will be held at the end of May.
キーワード	森林資源　森林バイオマス　木材工業　木質構造　木造住宅 Forest Resources, Forest Biomass, Timber Engineering, Wooden Housing, Wood Processing

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	Communicating Science		
英文授業科目名	Communicating Science		
開講年度	2024 年度	開講年次	1～3
開講学期、日にち、時限	第 3 学期 ／3 Term 水／wed.　4 限(14:45-16:15)	開講場所	東京農工大学小金井キャンパス　13 号館 505
授業の方法	Lecture	単位数	2
科目区分	教養科目 (Liberal Arts and Fundamental Studies)		
開講学科・専攻	全学科 (All departments)		
担当教員名	安村友紀（グローバル教育院）/ Yuki Yasumura, ケルシー　マトウィック (Embry-Riddle Aeronautical University, Prescott) / Kelsi Matwick		
居室	小金井キャンパス 13 号館 507　Room507, 13th Building, Koganei Campus		
公開 E-Mail	yuki-yasumura@go.tuat.ac.jp		
授業関連 Web ページ			

講義情報

主題および 達成目標	新しい技術が社会に受け入れられて普及するには、まず、その価値や有用性が理解されることが必須である。そのためにはどのようなコミュニケーションが有効なのか。研究者や技術者には、その技術の利点に加えて、社会や環境、文化的背景、メディアの特性、人々の生活に及ぼす影響を把握した上での情報発信と、影響を受ける人に寄り添う姿勢が求められる。本科目では、技術開発の影響をさまざまな観点から吟味し、また、異なる立場、価値観を持つ人々との共通理解や合意を得るためには何が必要かを考え、パブリックエンゲージメントによる科学者と市民の協働のあり方を探る。今回は、フードカルチャーとコミュニケーションの専門家である Dr Kelsi Matwick を講師に迎え、「食」にまつわる技術や課題について考える。「食」を支える持続可能な先進技術の実用例を学び、文化的背景やメディアの特性を踏まえた観点からステークホルダーの視点を考察する。そしてステークホルダーと研究者との共通理解の形成や協働を目指したコミュニケーションのあり方と適切な情報発信の方法を考える。 授業は英語で行われる。国際的な環境で、科学技術とその影響を話し合うための、英語によるディスカッションやプレゼンテーションのスキルアップも目指す。 This course is designed to consider and evaluate the technological advances and their impacts on the society from various points of view, and to consider effective communication strategies for scientists to communicate and collaborate with people who have different priorities, values, and interests. This year, we will discuss food technologies and related issues, with Dr Kelsi Matwick who is specialized in communication and cultural studies around food. We will learn modern biotechnologies that are applied in food production, and with a particular focus on cultural influence and effective information exchange through media, we will think about communication strategies that facilitate common understanding and supportive relationship between scientists and stakeholders

	from different sectors of the society. 到達目標は次の通り。 1. 英語で科学的な内容について効果的にディスカッションし発表することができる。 2. 様々な地域的特性や社会的立場に身を置く人々の、多様な視点や価値観を意識できる。 3. パブリックエンゲージメント、ステークホルダーコミュニケーションを理解する。 4. 科学技術の知識、利益、課題、問題点について、対話の相手にとって重要な点を、適切な言葉や方法で説明することができる。 科目別目標: 国際感覚、知の開拓能力、コミュニケーション、プレゼンテーション 1. To learn and practice how to discuss and present scientific topics effectively 2. To be aware of different interests, priorities and values of people who are in different positions of the society and in different parts of the world 3. To understand the concept of public engagement and stakeholder communications. 4. To understand and practice skills required to communicate effectively with the target audience and offer the critical information. Competency development: Global awareness, Innovative Thinking, Communication Skills, Presentation skills
前もって履修 しておくべき科目	なし
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	なし
教科書等	毎回講師が作成した教材を配布する。 Handouts will be distributed in the lecture.
授業内容と その進め方	1: 講義__穀物など農産物の栽培技術の普及によってもたらされたもの 2: ディスカッション__栽培技術による大量生産の利点と問題点。これからの食糧生産における課題 3: 講義__持続可能な未来のためのフードイノベーション 4: 講義__社会問題の観点から科学技術を評価、検証する 5: ディスカッション__バーガー」を考える～生産者、政府、消費者を含めた様々な観点から～ 6: 発表__フードテクノロジーについて、多角的な評価と研究者に求められること。 7: 講義__遺伝子組換え食品(GMO)についての議論。メディアの役割。 8: ディスカッション__ステークホルダー(利益を得る/不利益を被る人や団体)の主張とパブリックエンゲージメント 9: ディスカッション__ステークホルダーの目的に合わせた情報発信 10: 発表__「市民参与パートナー」に向けた科学技術の情報発信方法の提案 11: 講義__2050 年の食糧安全保障。難題と不確実性。

	12: ディスカッション__課題解決を目的としたアイディア出し 13: ディスカッション__プロジェクトの設計と主張の組み立て 14: 発表__研究ファンド獲得を想定したプロジェクトの提案 15: 最終課題作成(フィードバックを参考にプロジェクトの修正案を作成) 1: Lecture – Domestication of crops 2: Discussion – Benefits and problems of agriculture. Priorities for modern agriculture 3: Lecture – New food innovations towards a sustainable future 4: Lecture – Socioscientific evaluation of science 5: Discussion – Burgers seen from different points of view 6: Presentation – Evaluation of a food technology from different points of view 7: Lecture – Bioengineered crops: arguments for and against 8: Discussion – Identifying the stakeholders' agenda and public engagement in science 9: Discussion – Communication tailored for the stakeholders to meet their expectations and objectives 10: Presentation – To suggest a strategy of public engagement for a technology of choice 11: Lecture – Food security in 2050; challenges and uncertainties 12: Discussion – Idea generation for problem solving 13: Discussion – Planning a project and constructing a convincing argument 14: Presentation – Project proposal aiming at funding agencies 15: Rewriting presentation in response to feedback
授業時間外の学習 (予習・復習等)	30 時間の授業と 4 時間程度の発表準備に加え、オンライン(SIRIUS-LMS)に掲載された教材等を使って本学の標準時間数に準ずる予習・復習を行うこと。 In addition to 30 hours you spend in the class and preparation for presentations, you are recommended to prepare for and revise the classes spending the standard amount of time as specified by the University.
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	ワークシートの作成と発表の点数(80%)、ディスカッションへの参加(20%) Marks on the worksheets and presentations assigned during the class (80%). Commitment to discussion (20%)
オフィスアワー: 授業相談	授業前後に質問を受け付けます。メールでも質問や面談の設定に対応します。 Please ask questions before or after the class, or email to make appointments.
学生へのメッセージ	英語での講義、ディスカッション、プレゼンテーションで構成されます。留学や学会発表の前準備にも活用できる内容です。 This course is offered in English, and includes discussion sessions and opportunities for presentations.
その他	この科目は、2021 年度まで開講された Science and Technology in the Global Era の内容を踏襲したものです。Science and Technology in the Global Era を過去に履修した学生は、本科目の履修により単位を修得することはできません。 This course is based on 'Science and Technology in the Global Era' which was offered until 2021. Students who have attended 'Science and Technology in the Global Era' in the

	past will not be able to obtain additional credits by taking this course.
キーワード	パブリックエンゲージメント、ステークホルダーコミュニケーション、フードテクノロジー public engagement, stakeholder communications, food technology

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	英語で学ぶ物理学～What is a wave?～		
英文授業科目名	Physics in English～What is a Wave?～		
開講年度	2024 年度	開講年次	1-3
開講学期、日にち、時限	4nd term	開講場所	Koganei Campus
授業の方法	講義 Lecture	単位数	2
科目区分	教養科目　グローバル展開科目群／Liberal Arts and Fundamental Studies Global Integrated Studies		
開講学科・専攻			
担当教員名	三沢　和彦／MISAWA Kazuhiko		
居室	小金井キャンパス 4 号館 512 室　三沢研究室 Room 512, Bldg. 4, Koganei campus (Misawa's Lab)		
公開 E-Mail	kmisawa@cc.tuat.ac.jp		
授業関連 Web ページ			

講義情報

主題および 達成目標	Physics is the study of the fundamental laws that explain all phenomena in nature. Various phenomena surrounding us can be explained by the basic principles and fundamental laws of physics. Moreover, if we understand the fundamental principles of physics, we can explain various phenomena in a common way. The objective of this lecture is to develop the ability to observe, analyze, and interpret familiar phenomena using the concept of "waves," which is the most universal and versatile among various principles in physics. By watching experimental video materials on "waves," students will be able to explain phenomena according to the basic procedures of natural science (experiment, observation, and discussion). 1. To be able to explain in English the results of their own observations and analysis of the properties of waves in familiar phenomena. 2. To be able to explain phenomena according to the basic procedures of natural science: "experiment," "observation," and "discussion," using wave experiments as the subjects.
前もって履修 しておくべき科目	
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	
教科書等	OpenStax, College Physics 2e https://openstax.org/details/books/college-physics-2e

授業内容と その進め方	PART 1: OSCILLATORY MOTION AND WAVES 1-1. Simple Harmonic Motion 1-2. Waves 1-3. Superposition and Interference PART 2: PHYSICS OF SOUND 2-1. Sound 2-2. Sound Interference 2-3. Standing Waves PART 3: ELECTROMAGNETIC WAVES 3-1. Ampere’s Law / Faraday’s Law of Induction 3-2. Maxwell’s Equations: 3-3. Production of Electromagnetic Waves PART 4: WAVE OPTICS 4-1. Interference 4-2. Diffraction 4-3. Young’s Double Slit Experiment PART 5: QUANTUM PHYSICS 5-1. The Wave Nature of Matter 5-2. The Particle-Wave Duality 5-3. Bohr’s Theory of the Hydrogen Atom
授業時間外の学習 （予習・復習等）	
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	
オフィスアワー： 授業相談	
学生へのメッセージ	
その他	
キーワード	

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	日本の大学の国際化と留学促進		
英文授業科目名	Study Abroad and Internationalization in Japan		
開講年度	2024 年度	開講年次	1～3
開講学期、日にち、時限	第 4 学期 ／4 Term 集中／INTENSIVE	開講場所	
授業の方法	Lecture	単位数	1
科目区分	教養科目（Liberal Arts and Fundamental Studies）		
開講学科・専攻	全学科（All departments）		
担当教員名	フリッツ　エリック／ FRITZ Erik		
居室			
公開 E-Mail			
授業関連 Web ページ			

講義情報

主題および 達成目標	このコースでは、日本の国際化の概念を紹介します。 海外留学と英語教育が日本の国際化の取り組みにどのように結びついているのかを一緒に探り、議論していきます。 関連する研究からの分析を使用して、これらの取り組みを一緒に批判します。 This course will introduce the concept of internationalization in Japan. Together we will explore and discuss how study abroad and English education are linked to internationalization efforts in Japan. We will critique these efforts together using analysis from relevant research. このコースの主な目的は、海外留学が日本の国際化の概念にどのように貢献するかを理解することです。 留学を批判的な視点で見ることができるようになります。 留学分野の研究に関する短い論文を 3 本（A4 用紙 1 枚程度）作成します。 留学や日本の英語教育に関する様々なテーマについて話し合うことができます。 The main goal of this course is to understand how study abroad contributes to the concept of internationalization in Japan. You will be able to look at study abroad with a critical lens. You will write three short papers (about 1 A4 page each) reacting to research in the field of study abroad. You will be able to discuss various themes related to study abroad and English education in Japan.
前もって履修 しておくべき科目	
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	
教科書等	授業の教材は先生が用意します。 Class materials will be provided by the professor.

授業内容と その進め方	1 日目 コーススケジュール・プランのご紹介 日本における国際化の定義 日本の留学統計の概要 研究論文 #1 の概要と考察 2 日目 日本留学の批判的レビュー 主要な問題と繰り返し発生するテーマ 研究論文 #2 の概要と考察 3 日目 日本の英語教育と国際化 留学における英語教育の目標 研究論文 #3 の概要と考察 Day 1 Introduction of course schedule and plan Defining internationalization in Japan Study abroad statistics in Japan: An overview Outline and discussion of Research Paper #1 Day 2 A critical review of study abroad in Japan Major issues and recurring themes Outline and discussion of Research Paper #2 Day 3 English education in Japan and internationalization Goals of English education in relation to study abroad Outline and discussion of Research Paper #3
授業時間外の学習 （予習・復習等）	In addition to 16 hours you spend in the class and 5 hours in completing two written assignments, you are recommended to prepare for, and review, the classes spending the standard amount of time as specified by the University for each class, using the handout and the reference books specified below.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	3 つの研究論文に関する質問にどれだけうまく答えられるかによって評価されます。研究論文は授業中に紹介され、議論されます。 関連する情報源を調べてリアクションペーパーに含める必要があります。 また、毎日の授業で紹介されるテーマについて、英語でのグループディスカッションに参加するとポイントが付与されます。 ・ リアクションペーパー #1 – 30% ・ リアクションペーパー #2 – 30%

	・　リアクションペーパー　#3 – 30% ・　英語でのグループディスカッション　– 10% You will be evaluated by how well you answer questions about three research papers. These research papers will be introduced and discussed during class time. You will need to look up and include relevant sources in your reaction papers. You will also be given points for participating in group discussions in English regarding the themes introduced in class each day. ・　Reaction Paper #1 – 30% ・　Reaction Paper #2 – 30% ・　Reaction Paper #3 – 30% ・　Group Discussions in English – 10%
オフィスアワー: 授業相談	予約制　– fritz@go.tuat.ac.jp By appointment – fritz@go.tuat.ac.jp
学生へのメッセージ	
その他	
キーワード	国際化　留学 Internationalization　Study Abroad

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	Sustainable Global Food Production Systems		
英文授業科目名	Sustainable Global Food Production Systems		
開講年度	2024 年度	**開講年次**	1～3
開講学期、日にち、時限	第 3 学期 ／3 Term 集中／INTENSIVE	**開講場所**	
授業の方法	Lecture	**単位数**	1
科目区分	教養科目（Liberal Arts and Fundamental Studies）		
開講学科・専攻	全学科（All departments）		
担当教員名	オンワナ・アジマン・シアウ／ONWONA-AGYEMAN Siaw		
居室			
公開 E-Mail	agyeman@cc.tuat.ac.jp		
授業関連 Web ページ			

講義情報：現在、世界は人口の増加という状況に直面していると同時に、経済成長はあらゆる国での目標である。よって、地球の自然資源を損なうことなく、十分な食糧を生産することが緊急の課題となっている。このコースでは、ケーススタディを通して、脆弱な生態系を壊さず、農業従事者、地域社会、国家に社会経済的・環境的な恩恵をもたらす持続可能な食糧生産方法について学ぶことを目的とする。

Today, the world finds itself in a critical situation of an increasing population while economic growth has become the goal of almost all countries. A situation that calls for an urgent need to produce adequate food supply without destroying the earth's natural capacities. By using case studies, this course aims to teach students about sustainable food production practices that can bring both socioeconomic and environmental benefits for farmers, communities, and nations without destroying fragile ecosystems.

主題および 達成目標	この講義では、学生がリーディングスキルとオーラルコミュニケーションスキルを以下の項目において達成することを目的とする。 ・持続可能性の理解、及び農業分野への応用 ・農家が世界の様々な農業エコシステムにおいて直面する課題の理解、及び課題解決への活用 ・持続可能な各国の農業ポリシーに関して学生自らの意見を表現する 科目別目標：国際感覚、知の開拓能力、コミュニケーション、プレゼンテーション At the end of the course, students will be able to acquire enough reading and oral communication skills to enable them: ・To understand the concept of sustainability and how it is applied to Agriculture ・To understand various challenges farmers face in different Agro-ecological systems of the world and use this knowledge to offer suggestions to address some of these challenges ・To express their opinions on sustainable agricultural policies adopted by some countries Competency Development: Global Awareness, Ability to Explore Knowledge, Communication skills, Presentation skills

前もって履修 しておくべき科目	
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	
教科書等	各講義にて必要な試料、教材を配布。 Handouts/Wordlists will be provided before each lecture
授業内容と その進め方	Day 1 食糧生産における専門用語の習得 農業における持続性という定義の理解 農業における持続性の誤った認識について 農業エコシステムとその課題 農業の近代化における環境的及び社会的課題 食糧生産性向上と環境保全のバランス Terminologies used for Food Production Systems The concept/definition of Sustainability in the context of Agriculture Misconceptions about Sustainable Agriculture Agro-ecological systems and some challenges The Environmental and Social Costs of Modernizing Agriculture The balance between increasing food productivity and environmental conservation Day 2 資源保全型技術(保全型農業、ｱｸﾞﾛﾌｫﾚｽﾄﾘｰ等) 工業/燃料作物(ﾊﾟｰﾑﾔｼ、ｻﾄｳｷﾋﾞ等)と食糧安全保障 持続性農業に求められるポリシー 様々な国の事例に学ぶ Resource-conserving Technologies (Conservation Agriculture, Agroforestry, etc.) Industrial/Energy Crop Production and Food Security Policies that work for Sustainable Agriculture Case studies from various countries
授業時間外の学習 (予習・復習等)	
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	課題の評価 (80%): 課題、及びレポートなどを通して、持続可能な農業の課題及びそれについての自分の意見を英語で表現できるかを評価する。 平常点 (20%): 毎回の授業への参加やグループディスカッションへの取組みなどを評価する。 Assessment of students will be on the following basis. Evaluation of Assignments (80%): Ability to express opinions clearly, completion of assignments and a final report at the end of the course. Class Participation (20%): Class attendance and group discussion

オフィスアワー: 授業相談	府中キャンパス　:毎週月曜日　8:45 – 10:15 小金井キャンパス　:毎週木曜日 13:00 – 14:30 Wednesdays 8:45 – 10:15 (Fuchu campus) Thursdays 13:00 – 14:30 (Koganei campus)
学生へのメッセージ	ディスカッションにおいては、各課題に関して自分の意見を積極的に発言し、参加してください。 Students are encouraged to voice out their opinions on the issues to be discussed in class.
その他	
キーワード	食糧生産、持続可能な農業、農業エコシステム、ポリシー Food production, Sustainable Agriculture, Agro-ecological Systems, Policies

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	Food and Diplomacy		
英文授業科目名	Food and Diplomacy		
開講年度	2024 年度	開講年次	1～3
開講学期、日にち、時限	第 3 学期 ／3 Term 木／wed.　5 限(16:30-18:00)	開講場所	東京農工大学小金井キャンパス 13 号館 505
授業の方法	Lecture	単位数	2
科目区分	教養科目 (Liberal Arts and Fundamental Studies)		
開講学科・専攻	全学科 (All departments)		
担当教員名	ケルシー　マトウィック (Embry-Riddle Aeronautical University, Prescott) / Kelsi Matwick		
居室	小金井キャンパス 13 号館 507　Room507, 13th Building, Koganei Campus		
公開 E-Mail			
授業関連 Web ページ			

講義情報

主題および 達成目標	食の外交 (Culinary diplomacy) とは、食の魅力を通して人々や文化、国家間を結びつける外交のことで、有効かつ強力な手段として注目されている。このコースでは、国際関係において「食」が持つ影響力を、歴史的、かつ現代社会の事例を用いて考察する。そして、文化的アイデンティティの形成における「食」の役割を理解し、「食」が国家間の理解と協力を促進するためにどのように利用されるのかを探求する。本授業は、講義とディスカッション、料理のデモンストレーション、実地経験を組み合わせて構成され、学生は、食の外交、そしてそれがグローバル社会の国際関係に及ぼす影響について包括的な理解を深めることができる。 Culinary diplomacy is a powerful tool that brings people and cultures together through the art of food. This course explores the historical and contemporary significance of food in international relations, the role of food in shaping cultural identity, and how food can be utilized to foster understanding and cooperation between nations. Through a combination of lectures, discussions, cooking demonstrations, and hands-on experiences, students will gain a comprehensive understanding of culinary diplomacy and its impact on global relations. 到達目標は次のとおり。 - 食文化外交の包括的な理解を深め、国際関係におけるその重要性を認識し、食を通じた文化交流を促進できる - 移民、グローバリゼーション、および文化交流における食文化継承の意義を踏まえて、文化的アイデンティティ形成における食の役割を分析できる - ガストロノミー(食文化の論理的理解)と持続可能な発展の関係性を理解し、異文化理解の促進のためにフードツーリズムを活用することができる 科目別目標:

	国際感覚、知の開拓能力、コミュニケーション、プレゼンテーション At the conclusion of this course, students will be able to: – develop a comprehensive understanding of Culinary Diplomacy, recognizing its significance in international relations and fostering cultural exchange through food; – analyze the role of food in shaping cultural identity, considering the impact of migration, globalization, and preservation of culinary heritage amid cultural exchange; – understand the relationship between gastronomy and sustainable development, and explore culinary tourism as a promoter of cross-cultural understanding. Competency development: Global awareness, Innovative Thinking, Communication Skills, Presentation skills
前もって履修 しておくべき科目	なし
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	なし
教科書等	毎回講師が作成した教材を配布する。 Handouts will be distributed in the lecture. 参考文献：Long, L. (2021). Introduction: Culinary nationalism. Western Folklore. Nye, J. S. (2004). Soft Power: The means to success in world politics. Public Affairs.
授業内容と その進め方	第 1 回: 食の外交、食文化ナショナリズム、およびソフトパワー（理解や共感を得ることにより信頼や発言力を獲得し得る力）とは 第 2 回: ソフトパワー: 歴史と発展 第 3 回: 食の外交: 歴史、発展、および今後への展望 第 4 回: ソフトパワーと食の外交の行使 第 5 回: 外交的な食文化イベント、催し物 第 6 回: ケーススタディ: アメリカではどのように食の外交が外交政策ツールとして使われているか 第 7 回: 食文化ツーリズム: 国内 第 8 回: 食文化ツーリズム: 海外 第 9 回: 食文化ツーリズムとメディア 第 10 回: 食の外交と持続可能な発展 第 11 回: ゲスト講師による講義、または現地訪問 第 12 回: 料理デモンストレーション（「食」にまつわる動画視聴） 第 13 回: 最終プロジェクト作成 第 14 回: 食の外交シンポジウム 第 15 回: ふりかえり Class 1: Introduction to Culinary Diplomacy, Culinary Nationalism, and Soft Power Class 2: Soft Power: History and Development Class 3: Culinary Diplomacy: History, Development, and Prospects Class 4: Wielding Soft Power and Culinary Diplomacy

	Class 5: Diplomatic Culinary Events and Festivals Class 6: Case Study: How America Uses Culinary Diplomacy as a Foreign Policy Tool Class 7: Culinary Tourism: At Home Class 8: Culinary Tourism: Abroad Class 9: Culinary Tourism and Media Class 10: Culinary Diplomacy and Sustainable Development Class 11: Guest speaker or site visit Class 12: Food film viewing Class 13: Final Project Work Days Class 14: Culinary Diplomacy Symposium Class 15: Culinary Diplomacy Course Reflection
授業時間外の学習 （予習・復習等）	30 時間の授業に加え、オンライン（LMS）に掲載された教材等を使って本学の標準時間数に準ずる予習・復習を行うこと。 In addition to 30 hours you spend in the class, you are recommended to prepare for and revise the classes spending the standard amount of time as specified by the University.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	ケーススタディの分析 25%、提案作成課題 40%、プロジェクト課題 25%、発表 10% Case study analysis 25%, Proposal 40%, Reflection and Project 25%, Presentation 10%
オフィスアワー： 授業相談	事前の日程調整による面談で対応 available by appointment
学生へのメッセージ	
その他	※本授業は、フルブライト招聘講師として東京農工大学に滞在される Matwick 先生にご担当いただきます。Matwick 先生は、米国 Embry-Riddle Aeronautical University の教員で、Food and Culture, Food Media, Food Diplomacy を専門にされています。 This course is offered by Dr Kelsi Matwick, Assistant Professor of Embry-Riddle Aeronautical University, USA, who is specialized in the study of Food and Culture, Food Media, and Food Diplomacy. She will be visiting and teaching at TUAT from October 2024 to February 2025 as a Fulbright US Scholar.
キーワード	食の外交（食文化外交、料理外交）、食とナショナリズム（自国文化）、国際関係、食文化ツーリズム（食文化観光） culinary diplomacy, food and nationalism, international relations, culinary tourism

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	学域特別講義 A（アルゴリズムの基礎）		
英文授業科目名	Special Lecture on Informatics and Engineering A (Fundamentals of Algorithms)		
開講年度	2024 年度 FY 2024	開講年次	1/2/3/4
開講学期、日にち、時限	前学期（夏季集中） Summer Lecture 9/3・9/4　9:00-16:10	開講場所	なし
授業の方法	遠隔講義 Online Lecture	単位数	1
科目区分	総合文化科目／特別講義		
開講学科・専攻	全類 All clusters		
担当教員名	小林　聡 Satoshi Kobayashi		
居室	西9―738 West No. 9 Building Room 738		
公開 E-Mail	kobayashi.satoshi@uec.ac.jp		
授業関連 Web ページ	http://www.comp.cs.uec.ac.jp/AlgEng/		

講義情報

主題および 達成目標	本講義の目的は、いくつかの基礎的な問題に対する効率の良いアルゴリズムの設計方法を与えることである。達成目標は、 (1)　講義で議論するアルゴリズムの振る舞い、正当性、時間計算量を理解できること、および (2)　動的計画法や貪欲算法などのアルゴリズムの設計手法を理解できること である。 The purpose of this lecture is provide the theory and technique to design efficient algorithms for some fundamental problems. The goals of the students are to achieve the following points: (1) to understand the behavior, correctness, and time complexity analysis of the algorithms discussed in the lecture, (2) to understand the principles of design methodologies of algorithms, such as dynamic programming, greedy method, etc.
前もって履修 しておくべき科目	C 言語のプログラミングに関する科目、および、アルゴリズムの基礎的なデータ構造（リスト、二文木、ヒープ、など）と基礎アルゴリズム（ソートアルゴリズムなど）を理解できていること。 Registered students should have ability to write C programs. Furthermore, the knowledge about some basic data structures (list, binary tree, heap, etc.) and basic algorithms (sorting, etc.) are required.

前もって履修しておくことが望ましい科目	文脈自由文法に関する知識 Some knowledge about context-free grammars
教科書等	授業で資料を配布する。 Some handouts are provided at the lecture.
授業内容とその進め方	(a) 授業の内容 [1] 最小全域木と貪欲算法 [2] Prim のアルゴリズムと Kruskal のアルゴリズムの正当性 [3] 他の問題に対する貪欲算法 [4] 最短経路問題と動的計画法 [5] 動的計画法(1)—DFA の正則表現への変換 [6] 動的計画法(2)—文脈自由文法とその認識問題 [7] 動的計画法(3)—文脈自由文法の認識問題に対する CKY アルゴリズム [8] 動的計画法(4)—近似文字列照合アルゴリズム (b) 授業の進め方 各問題に対して背景などを説明した後、アルゴリズムを与える。 アルゴリズムの正当性と時間計算量の解析は詳細に行う。 理解を深めるために実行例も与える。 すべて講義について、講義ビデオを事前に与える。授業時間は 講義ビデオの内容に関する質問を受け付けるために用いる。 (a) Contents of the lecture [1] Minimum spanning tree problem and greedy algorithms [2] Correctness of Prim's and Kruskal's algorithm [3] Greedy algorithms for other problems [4] Shortest path problem and Dynamic Programming (DP) [5] DP Method (1) —— Transform DFAs to regular expressions [6] DP Method (2) —— Context-free grammar and its recognition problem [7] DP Method (3) —— CYK algorithm for CFG recognition [8] DP Method (4) —— Approximate string matching algorithms (b) How does this lecture proceed? For each problem, we first discuss on its background and motivation, and then give an algorithm for the problem. The correctness and time complexity analysis of the given algorithm will be discussed in details. Example runs will be used to enrich the understanding. Every lecture is given as a lecture video beforehand. At the lecture time, students can ask questions.

授業時間外の学習 （予習・復習等）	学生は、講義の内容に関連した問題をオンラインで解くことが要求される。 Students should solve some problems online related to lecture topics.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	成績は、与えた問題に対する評価で決まる。最低基準は、60%以上 正解することである。 Academic performance is evaluated by giving problems online. The lowest standard is 60%.
オフィスアワー： 授業相談	学生からの電子メールによる質問を受け付ける。 しかしながら、講義開始前に講義ビデオをすべて与えるので、講義時間に できるだけ質問してほしい。講義時間は、学生への質問に答えるために 利用する。 Students may ask questions by e-mails. Since all the lecture videos are provided before starting the lecture, please ask questions at the lecture time as far as possible. Each lecture time is used for answering questions of the students.
学生へのメッセージ	なし None.
その他	なし None
キーワード	Dynamic programming, greedy algorithms, context free grammars, etc.

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	学域特別講義 A（融合領域の最新動向 B）		
英文授業科目名	Special Lecture on Informatics and Engineering A] （Current Topics in Emerging Multi-interdisciplinary Engineering B）		
開講年度	2024 年度 FY 2024	**開講年次**	1/2/3/4
開講学期、日にち、時限	前学期（夏季集中） Summer Lecture 9/5・9/6・9/9・9/10 13:00-16:10	**開講場所**	情報理工学域 School of Informatics and Engineering
授業の方法	講義 Lecture	**単位数**	1
科目区分	総合文化科目／特別講義		
開講学科・専攻	全類 All clusters		
担当教員名	担当教員： 菅原 健.　SUGAWARA, Takeshi 李 陽.　LI, Yang 岩本 貢　IWAMOTO, Mitsugu バグス サントソ.　BAGUS, Santoso 尚 方.　SHANG, Fang 萱野 良樹.　KAYANO, Yoshiki 小木曽 公尚.　KOGISO, Kiminao 孫 光鎬.　SUN, Guanghao 姜 銀来.　JIANG, Yinlai		
居室	西 3-218 Building West 3, Room 218		
公開 E-Mail	sugawara@uec.ac.jp		
授業関連 Web ページ	——		

講義情報

主題および 達成目標	「情報」と「理工」が融合する学問領域における最新のトピックスについて概観し、これに精通すること。 To outline and familiarize with the latest topics in the academic field where ″information″ and ″science and technology″ merge.
前もって履修 しておくべき科目	なし None
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	なし None
教科書等	なし

授業内容と その進め方	情報」と「理工」が融合する学問領域における最新のトピックスについてII類の各教員がオムニバス形式で講義を行う。 About the latest topics in the academic field where ″information″ and ″science and engineering″ merge, each faculty member gives a lecture in an omnibus format. 9月5日(木)3時限: バグス サントソ 准教授 1. 量子コンピュータに対しても安全な公開鍵暗号への紹介 1. Introduction to Post-Quantum Public Key Cryptography 9月5日(木)4時限:岩本 貢 教授 2. 情報理論的暗号:最強の安全性の実現手法 2. Information-Theoretic Cryptography: How to realize the strongest security 9月6日(金)3時限:尚 方 准教授 3. 人工衛星搭載合成開口レーダのデータ解析と応用例 3. Data interpretation and application examples of space-borne synthetic aperture radar 9月6日(金)4時限:萱野 良樹 准教授 4. 環境電磁工学概論 4. Introduction to Electromagnetic Compatibility 9月9日(月)3時限:姜 銀来 准教授 5. 人間と機械をつなぐ 5. Interfacing Human and Machine 9月9日(月)4時限:李 陽 准教授 6. 暗号システムのセキュリティ 6. Cryptosystems Security 9月10日(火)3時限:小木曽 公尚 教授 7. 制御システムとサイバーセキュリティ 7. Control Technology and Cybersecurity 9月10日(火)4時限:孫 光鎬 准教授 8. 非接触バイタルサイン計測とその医療応用 8. Non-contact vital sign measurement and its clinical applications
授業時間外の学習 (予習・復習等)	各教員の指示に従う Follow the instructions of each teacher
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	レポート Evaluation is based on class reports.
オフィスアワー:	なし

授業相談	None
学生へのメッセージ	「情報」と「理工」が融合する学問領域における多様な世界観に触れてみましょう。 Let's take a look at various views of the world in the academic field where "information" and "science and technology" merge.
その他	遠隔方式(zoom)で行う予定
キーワード	暗号化制御、合成開口レーダ、生体計測、暗号、セキュリティ、 ヒューマン・マシン・インターフェース、環境電磁工学、公開鍵暗号 Encrypted Control, synthetic aperture radar, Bio-measurement, Cryptography, Security, Human Machine Interface, Electromagnetic Compatibility (EMC), public-key cryptography

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	学域特別講義 A（基盤理工学 B）		
英文授業科目名	Current Topics in Fundamental Science and Engineering B		
開講年度	2024 年度 FY2024	開講年次	1/2/3/4
開講学期、日にち、時限	前学期（夏季集中） Summer Lecture 9/4 13:00-16:10 9/5, 9/6 10:40-16:10 を予定	開講場所	Ⅲ 類ゼミ室を予定
授業の方法	講義 Lecture	単位数	1
科目区分	総合文化科目／特別講義		
開講学科・専攻	全類 All clusters		
担当教員名	松林　和幸 Kazuyuki Matsubayashi		
居室	東 6-421 Building East 6, Room 421		
公開 E-Mail	k.matsubayashi@uec.ac.jp		
授業関連 Web ページ			

講義情報

主題および 達成目標	コミュニケーションに関連した新しい実践的な科学技術分野、「総合コミュニケーション科学」を創出するために必要な基盤理工学における現在のトピックを概説する。本講義では「総合コミュニケーション科学」を創造するために必要な学問分野とそれらの相互関係を理解することを目的とする。 Make a review of current topics in fundamental science and engineering which are necessary for creating a new practical science and technology field related to communication “Comprehensive Communications Sciences”. In this course, aim an understanding the areas of academic discipline necessary for creating ″Comprehensive Communications Sciences″ and their interrelationships.
前もって履修 しておくべき科目	なし None
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	なし None
教科書等	なし None

授業内容と その進め方	基盤理工学のうち、機械システム、電子工学、光工学、物理工学および化学生命工学の各分野から最近のトピックスについてオムニバス形式で講義を行う。また、研究室見学も実施する。集中講義は 3 日間を予定している。 Of fundamental science and engineering, lecture in omnibus format on current topics from each field of mechanical system, electronic engineering, optical science and engineering, applied physics, chemistry and biotechnology. We will also conduct Lab. Tours. Intensive course is scheduled for 3 days. 内容（予定): Content : (1) イントロダクション Introduction (Prof. Tomokazu Shiga) (2) 高度情報化社会のための量子ドット技術の進展 Progress in Quantum Dot Technologies for Advanced Information Society (Prof. Kouichi Yamaguchi) (3) 量子ドットと次世代太陽電池の研究見学（ラボツアー1） Lab. for quantum dots and future solar cells (Miyashita Lab.) (4) ゲノム解析とゲノム編集 Genome analysis and genome editing (Prof. Sampei Gen-ichi) (5) 摩擦の現象 Phenomenology and Numerical Implementation of Coulomb Friction with applications (Prof. Matuttis Hans-Georg) (6) 究極の省エネ技術～ゼロ摩擦への挑戦～ Ultimate energy-saving technology – Challenge to zero friction (Prof. Naruo Sasaki) (7) デジタルホログラフィーを使った 3 次元イメージング Three-dimensional imaging with a digital holography (Prof. Eriko Watanabe) (8) デジタルホログラフィックイメージングの研究見学（ラボツアー2） Lab. for digital holographic Imaging (Watanabe Lab)
授業時間外の学習 （予習・復習等）	その日のうちに、興味を持った言葉や事柄を見つけて調べる。 Pick up and investigate interesting words and things in the day.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	講義に関する課題と、学んだ事柄についてのまとめたレポートを提出すること。また、講義ごとに小テストを行う。レポート点（60%）および小テスト（40%）で総合評価する。 To submit a summary report including some tasks and what you learn in this course. Also, give a brief quiz in each lecture. Comprehensive evaluation is made at the report points (60%) and quizzes (40%).
オフィスアワー: 授業相談	随時受け付けます。予めメールでアポイントを取ってください。 Please make an appointment before coming to my office.

	Contact: Building East 6, Room 421 k.matsubayashi@uec.ac.jp
学生へのメッセージ	興味を持つことが重要です。 It is important to be interested in anything!!
その他	なし None
キーワード	機械システム、電子工学、光工学、物理工学、化学生命工学 Mechanical system, Electronic engineering, Optical science and engineering, Applied physics, Chemistry and Biotechnology

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	学域特別講義A(基礎物理学実験)		
英文授業科目名	Special Lecture on Informatics and Engineering A (Introduction to Physics Laboratory)		
開講年度	2024 年度 FY2024	開講年次	電通大生 2/3/4 東外大生・農工大生 1/2/3/4
開講学期、日にち、時限	夏季集中(変更の可能性あり) late Aug～early Sept. in First semester (90 min×3) ×5 days	開講場所	D 棟 2 階および 3 階物理実験室 Lab rooms on the 2nd and 3rd floor of Building D
授業の方法	実験 Lab work	単位数	1
科目区分	総合文化科目／特別講義		
開講学科・専攻			
担当教員名	未定 TBD		
居室	D 棟 2 階教員控室 Teacher's waiting room on the 2nd floor of Building D.		
公開 E-Mail	phys_lab@e-one.uec.ac.jp		
授業関連 Web ページ	http://physics.e-one.uec.ac.jp/ (in Japanese)		

講義情報

主題および 達成目標	(a) 主題「基礎物理学実験」の目的は，基礎的な物理学の実験を通して科学の方法を体得することである．物理の法則を体で体験することによって理解してほしい．いろいろな実験装置に触れ，さまざまな物理量を計測して，実験の手法に慣れることは理工系の学生として必須である． (b) 達成目標 ・毎回の実験における測定の原理を理解すること． ・使用する各種の実験装置と計測器に慣れること． ・測定値の処理の仕方(不確かさの計算，有効数字の概念)を習得すること． ・レポートの作成および論理的な文章の作成に慣れること． The aim of the Physics Laboratory is to master the skills of researcher and engineer through fundamental physics experiments. It is essential for the students studying science and technology to touch various experimental devices, measure various physical quantities, and become accustomed to experimental methods. (b) Achievement goal is · to understand the principle of measurement in each experiment, · to become accustomed to various experiment equipment and measuring instruments to be used, · to master how to process measured values (calculation of uncertainty, concept

	of significant figures), · getting used to writing reports and creating logical sentences.
前もって履修 しておくべき科目	なし Nothing in particular
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	なし None in particular
教科書等	教科書:「基礎物理学実験」(学術図書出版社) 実験ノート(5mm 方眼)、方眼紙、関数電卓、ノート PC Textbook: “Kisobutsurigakujikken” (English version will be available) Students will also bring experimental note book (cross-sectional type), graph paper, scientific calculator. Your laptop PC is available.
授業内容と その進め方	【1日目:13:00～17:45】 第1回: ガイダンス(履修する学生は必ず出席すること) 第2回: 計測機器の使用方法、計測値の取り扱い 第3回: 安全教育 【2日目: 10:40～17:45】 第4回～第7回 実験1 【3日目: 10:40～17:45】 第8回～第11回 実験2 【4日目: 10:40～17:45】 第12回～第15回 実験3 第4～15回: 以下の6テーマより、予め割り当てられた実験を行う。 原則として4回(1 日)で1テーマを行う。 1. 重力加速度 2. 液体の比熱 3. 等電位線 4. 光のスペクトル 5. エアトラックによる力学実験 6. 放射線の計測 (b) 実験の進め方 実験開始時に出欠を兼ねて、その日の実験内容に関する小テストを行なうことがある。その後、主として内容の概略や注意点、テキストに掲載されていない補足説明を受け、実験に取り掛かる。テーマによって、1人で実験するものからグループで行なうものがある。計測等の実験終了後、その場でレポート作成を行う。自身のノート PC やタブレットを使用してもよい。 #1 Guidance. Students who take classes must attend. #2 Instruction of experimental equipment and analysis of measured values #3 Safety education #4 to #15: Exchange 3 themes in turn from the 6 experiments as follows. 1. Gravitational acceleration 2. Specific heat of liquid

	3. Two-dimensional equipotential lines 4. Spectrum of light 5. Mechanical experiment using air track 6. Measurement of radiation The experiments will be one theme in a day.　After the experiment such as measurement, we will make a report on the spot. You may use a laptop PC.
授業時間外の学習 （予習・復習等）	実験テキスト及び実験のwebページ，LMSを参考に予習を必ず行なうこと. It might be difficult to keep up with the experiment without studying the materials in advance.　Students should prepare with textbook and LMS-contents.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	成績基準および成績評価は以下による. ⑴ 正規の3テーマの実験を全て行い，それら3通のレポートが受理されていること. 再提出を指示されたレポートは，再提出しなければ評価されないので注意すること. ⑵ 各レポートは5点満点で評価し，合計点が9点以上であること. Each report should be evaluated on a scale of 5.　Successful candidates will satisfy the following conditions. 1. Three regular experiments were performed and the three reports were received. 2. The total score of the reports is greater than or equal to 9.
オフィスアワー： 授業相談	【オフィスアワー】集中講義形式であるので、授業後に質問を受け付ける. 【Office Hour】As it is an intensive lecture, you will receive questions after class.
学生へのメッセージ	自然現象をモデル化して理解する過程を実験を通して体感して下さい。また様々のルールに従ったレポート作成技術は、理工系学生に必須のスキルであるので、その修得に努めてください。 Please experience the process of modeling to describe natural phenomena through experiments. In addition, skills to write scientific and engineering report following various rules are essential for YOU, so please strive to acquire them.
その他	
キーワード	物理学実験，測定値の処理，不確かさの計算，報告書の作成，論理的文章 Physics experiment, processing of measured values, calculation of uncertainty, preparation of report, logical sentences

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	学域特別講義 A（基礎化学実験）		
英文授業科目名	Special Lecture on Informatics and Engineering A (Introduction to Chemistry Laboratory)		
開講年度	2024 年度 FY2024	開講年次	電通大生　2/3/4 東外大生・農工大生　1/2/3/4
開講学期、日にち、時限	前学期（夏季集中） late Aug～early Sept. in First semester (90 min×3) ×5 days	開講場所	D 棟4階実験室 Lab rooms on 4th floor of Build. #D
授業の方法	実験 Lab work	単位数	1
科目区分	総合文化科目／特別講義		
開講学科・専攻			
担当教員名	小林 義男 KOBAYASHI, Yoshio		
居室	東6-901 Bldg. East #6 Room 901		
公開 E-Mail	kagaku [at] e-one.uec.ac.jp		
授業関連 Web ページ			

講義情報

主題および 達成目標	基礎化学実験の目的 (1) 実験に対する姿勢を身につける。 (2) 実験を通じて化学を学ぶ。 (3) 基本的実験操作を会得する。 高校までの理科科目の学習では実地に「もの(物質)」に触れ，理論や法則を目のあたりに確認する機会が多くない。紙の上での理解に陥り易く，また理解そのものも表面的になりがちである。このクラスでは，実験を通じて基礎的物質観を養うことを目的とする。さらに，現代化学の重要な手法であるスペクトロスコピーを導入するとともに、安全と環境への配慮も身につける。理系学生の基礎を養うトレーニングコースと位置付けている。 Purpose of Chemistry Laboratory (1) You learn the readiness of the chemical experiment. (2) You study chemistry through the experiments. (3) You understand the fundamental chemical procedures. “Chemistry Laboratory (Fundamental Science Laboratory B)” is opened to all departments from the viewpoint of the basic materials science. You also learn the spectroscopies that are the most important methodologies in modern science, and safety and environmental problems. This program is positioned as a training course to

	cultivate the foundation for the university students that study science and engineering.
前もって履修 しておくべき科目	なし Nothing in particular
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	なし None in particular
教科書等	教科書:「基礎科学実験B」(電気通信大学化学教室編) 生協で販売するので、ガイダンスのときに持参して下さい。 Textbook “Fundamental Science Laboratory A – Chemistry –”. Bring the textbook at the guidance.
授業内容と その進め方	※　対面で行ないます。 授業内容 　日程は履修希望者のスケジュールを考慮の上決定します。 (例 ： 9月第1週目に開講する場合。) 【1日目:9/2(月)13:00～17:45】 第1回　ガイダンス(履修者は必ず出席すること) 第2回　安全教育 第3回　ガラス器具の基本操作 【2日目:9/3(火)10:40～17:45】 第4回　実験＃1の説明 第5･6回　実験＃1 第7回　実験＃1のレポート作成 【3日目:9/4(水)10:40～17:45】 第8回　実験＃2の説明 第9･10回　実験＃2 第11回　実験＃2のレポート作成 【4日目:9/5(木)10:40～17:45】 第12回　実験＃3の説明 第13･14回　実験＃3 第15回　実験＃3のレポート作成 実験＃1～＃3は、以下から事前に決定する。 ･デュマ法による分子量測定 ･ダニエル電池の起電力測定 ･コロイドの作製と物性評価 ･吸光光度法による鉄の定量 ･紫外可視吸収スペクトルと分子軌道 ･カフェインの抽出と紫外吸収スペクトル ･アスピリンの合成と赤外分光法 ･定性分析 担当教員が実験における注意点や内容の説明をする。実験をはじめる前に簡単な

	テストを行ない、実験内容の理解度の確認をする。終了後，実験レポートを作成して，提出する。実験ノートの記載内容を確認して検印を押し，後片付けをする。 Contents ※ It may be a remote lecture or cancelled depending on the social situation for the COVID-19 infection. The experiment is scheduled to start in the second week of September, but it will be arranged according to the applicants. Day 1 class 1 Guidance class 2 Safety education class 3 Instruction of experimental apparatus Day 2 class 4 Instruction of Exp. #1 class 5, 6 Exp. #1 class 7 Report of Exp. #1 Day 3 class 8 Instruction of Exp. #2 class 9, 10 Exp. #2 class 11 Report of Exp. #2 Day 4 class 12 Instruction of Exp. #3 class 13, 14 Exp. #3 class 15 Report of Exp. #3 Exp. #1, #2 and #3 are selected in advance from the following item. ・ Molecular weight measurement by Dumas method ・ Electromotive force of Daniel cell ・ Colloid ・ Determination of iron by absorption spectrophotometry ・ Ultraviolet-visible absorption spectrum and molecular orbitals ・ Extraction of caffeine and ultraviolet absorption spectrum ・ Preparation of Aspirin and Infrared spectroscopy ・ Qualitative analysis of metal ions Before class starts, make sure you understand the experiment. You are supposed to do and all safety aspects. At the beginning of each experiment, the instructor will lecture on the experiment. Experimental notes should be recorded in your lab notebooks during the experiment. Record all observations and events. Sketch the apparatus. After the experiment, submit the report.

授業時間外の学習 （予習・復習等）	実験前にテキストを良く読み、実験内容を十分理解しておいてください。実験終了後，実験内容をまとめてレポートとして提出すること Read the experimental purpose and the chemical procedure before the experiment and understand the contents of the experiment. It is important to summarize the experimental procedure in your notebook.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	レポートは以下の項目で評価する。欠席および未提出レポートが無いことを原則とする。 成績評価のポイント (1) 実験内容の理解 (2) 実験操作と観察結果の記録 (3) データ整理 (4) 結果の表やグラフの書き方 (5) 結果について論理的考察 Reports must be submitted on time within one week of the experiment. Marks will be evaluated the following points: (1) Understanding of the experimental context (2) Experimental procedure and record of observation results (3) Data handling (4) Writing the obtained results in graphs and tables (5) Logical and chemical discussions on the experimental results
オフィスアワー： 授業相談	オフィスアワー：小林（全体責任者）土曜3限 D棟4階教員控え室 履修などの問い合わせは，化学事務室（東1-211）に電子メール（kagaku [at] e-one.uec.ac.jp）でも受け付けます Office hour : Saturday 13:00～14:30 at D-bldg. 4F. Contact : Chemistry Office at East #1 bldg. Room 211. e-Mail : yoshio.kobayashi [at] uec.ac.jp
学生へのメッセージ	いろいろな化学実験を行い、得られた実験データに基づいてレポートを作成する。通常の講義とは違って、学ぶことも得られるものも多い。知識を身につけるだけではなく、理科系のいわば基礎体力を養うトレーニングコースである。 You carry out various experiments of chemistry and submit the report based on the obtained data. Unlike ordinary lectures, you can obtain many things that can be learned. This class is one of the training courses that cultivate fundamental chemistry.
その他	
キーワード	デュマ法による分子量測定、ダニエル電池の起電力測定、コロイド、吸光光度法による鉄の定量、カフェインの抽出と紫外吸収スペクトル、アスピリンの合成と赤外分光法、定性分析 Molecular weight measurement by Dumas method, Electromotive force, Daniel cell,

	Colloid, Absorption spectrophotometry, Molecular orbitals, extraction of caffeine, Ultraviolet absorption spectrum, Preparation of Aspirin and Infrared spectroscopy, Qualitative analysis of metal ions

令和６年度　３大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	Experimental Electronics Laboratory		
英文授業科目名	Experimental Electronics Laboratory		
開講年度	2024 年度 FY2024	開講年次	電通大生 2/3 東外大生・農工大生 1/2/3
開講学期、日にち、時限	後学期 Second semester 木曜日 13:00～16:10 Thursday 13:00～16:10	開講場所	西 8 号館 317 号室 Bldg. West 8, room 317
授業の方法	実験 Lab work	単位数	2
科目区分	専門科目		
開講学科・専攻	Ⅲ類 Cluster Ⅲ		
担当教員名	岸本, Nayak		
居室	東 6 号館 628 号室 Building East 6, Room 628		
公開 E-Mail	kishi(at)pc.uec.ac.jp, kalipnayak@uec.ac.jp		
授業関連 Web ページ	none		

講義情報

主題および 達成目標	この実験科目は、電気電子回路の基本を実験しながら修得することがテーマになります。この科目では、アナログ受動素子回路、アナログ能動素子回路、デジタル回路の3分野から選りすぐった計７つの必修テーマに関して、実際に様々な回路を組みたて動作させる作業を通して、電気電子回路に関する基本的な理解と応用力を身につけます。 This course is designed for students who have no or little practical knowledge of electrical circuits. They will learn the basics of analog and digital electronics through hands-on experiments combined with short lectures to enhance their fundamental understanding of electronic circuits.	
前もって履修 しておくべき科目	基礎的な電気回路に関する科目 Basic Electronics	
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	複素数についても学んでおくとよい。 Analysis, especially complex numbers.	
教科書等	実験手順が記述されたテキストの pdf ファイルが用意されています。 A pdf version of the instruction manual will be provided during the class.	
授業内容と その進め方	7 つの必修実験テーマに関して、実際に様々な回路を組みたて動作させる作業を通して、電気現象および電気回路や電子回路に関する基本的な理解と応用力を身につけます。また、実験した内容を報告書にまとめる能力を養います。自分が実験した結	

	果および理解した内容を文書をとおして適切に人に伝えることができるようなトレーニングを行います。 第1週を全体ガイダンスとし、その後、下記の項目の実験を行います。クラスは、「実験の週」と、「提出レポートに関する講評および口頭試問の週」を交互に受講していきます。 尚、実験は、学生が 2 人 1 組で行います。 (第 1 週)　全体共通ガイダンス (第 2 週)　英語クラスガイダンス (第 3 週)　インピーダンスの周波数測定1　抵抗 (第 4 週)　レポート講評　インピーダンスの周波数測定1　抵抗 (第 5 週)　インピーダンスの周波数測定2　インダクタとキャパシタ (第 6 週)　レポート講評　インピーダンスの周波数測定2　インダクタとキャパシタ (第 7 週)　LC 共振回路 (第 8 週)　レポート講評　LC 共振回路 (第 9 週)　ラジオ信号送信と LC 共振回路を用いた受信 (第 10 週)　レポート講評　ラジオ信号送信と LC 共振回路を用いた受信 (第 11 週)　LED とトランジスタ (第 12 週)　レポート講評　LED とトランジスタ (第 13 週)　オペアンプとその応用(LED を用いた信号の送受信) (第 14 週)　レポート講評　オペアンプとその応用(LED を用いた信号の送受信) (第 15 週)　論理回路 Each student builds the following electrical circuits on the solderless breadboard. He or she then measures and analyzes various properties. The experiments are carried out every other week, and classroom discussion is held in between. 7 hands-on projects are the following: 1) Measurement of resistance. 2) Measurement of complex impedance for C and L. 3) Resonant behavior of LC-circuits. 4) Transmission of radio signals and collection using LC-circuits. 5) Transistors and LEDs. 6) Operation amplifiers and their applications. (transmit and receive sound signals using LEDs). 7) Logic gates.	
授業時間外の学習 (予習・復習等)	実験をきちんと実施するためには、あらかじめテキストを十分予習し、実験で用いる素子の基本的な理解をしておく必要があります。 Please study the basic technical terms of the IC you will work on each week before performing the electronics laboratory experiments.	
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	(a)評価方法: {実験レポート}(60%)、{実験時や講評時における取り組みの様子}(40%)を、おおむね上記の割合で総合的に評価します。 (b)評価基準 以下の到達レベルをもって合格の最低基準とします。 (1)　実験をすべて実施すること。	

	（2） 実験に関するレポートを定められた期日までに全て提出すること。 （3） 口頭での講評を受けて、実験に関する全てのレポートが担当教員に受理されること。ただし、レポートの再提出を指示された場合には、それぞれ決められた期日までに再提出しなければ、受理されたとはみなされない。 （4） 講評時の講義中の議論に参加すること。 （5） 成績評価の平均が SABCD の 5 段階評価のうち、C 以上であること。 すなわち、各実験テーマについての基本原理と基本動作を理解して実際に実験実施できるとともに、実施した実験内容を正しく報告書にまとめることができること。 It is mandatory to finish all the projects listed above in order to acquire the credit. The attitude and motivation towards the experimental work accounts for 40% of the evaluation score. These 40% include potential evaluation through random oral examination or open discussion of the knowledge acquired through self-studies and post-laboratory lectures. The remaining 60% correspond to the evaluation of the submitted reports which should be logically organized to clearly present the results obtained during the experimental class and discuss them. Delayed submission of these reports will decrease the student's evaluation score.	
オフィスアワー: 授業相談	実験時間中やレポート講評時間中に、担当教員が適宜相談に応じます。不明点等に対しては積極的に質問してください。 連絡先：東 6 号館 628 号室　内線 5449、kishi(at)pc.uec.ac.jp Please make an appointment before coming to my office. Contact: Bldg-E6, room 628 Ext:5449 kishi(at)pc.uec.ac.jp	
学生へのメッセージ	この英語クラスは、なるべく楽しく学びながら理解を深めていけるような実験テーマを用意しております。 We constantly improve the various projects to ensure that students learn basic electronics circuits while having fun. So come and have fun playing with electronic circuits in a multicultural environment!	
その他	この講義は、短期留学生と電通大学部2年生の希望学生による合同クラスとして、英語ベースで行われています。 The course was originally designed for JUSST students, but regular students are more than welcome to take it.	
キーワード	複素インピーダンス、インダクタ、コンデンサ、論理ゲート、オペアンプ、トランジスタ complex impedance, inductor, capacitor, logic gate, operational amplifier, bipolar junction transistor.	

令和 6 年度　3 大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	UEC Academic Skills I (Computer Literacy)		
英文授業科目名	UEC Academic Skills I (Computer Literacy)		
開講年度	2024 年度 FY2024	開講年次	電通大生 1/2/3/4 東外大生・農工大生 1/2/3
開講学期、日にち、時限	後学期 Second semester 火曜日 9:00～10:30	開講場所	C 棟 401 （演習室） C building 401 (Computer Room)
授業の方法	講義 Lecture	単位数	2
科目区分	総合文化科目		
開講学科・専攻	全類 All clusters		
担当教員名	Choo Cheow Keong		
居室	East 2-305		
公開 E-Mail	uec-as1@fedu.uec.ac.jp		
授業関連 Web ページ	http://www.fedu.uec.ac.jp/skills		

講義情報

主題および 達成目標	この授業は、英語でコンピュータに関する基礎的な知識・スキルを身につける。情報社会の基本的な倫理と法順守の理解から始まり、Unix システムや Git の基本操作、LaTeX によるドキュメントや論文の作成とホームページ制作まで学習する授業である。（英語力はいっさい問いません。短期交換留学生と一緒に学べる英語授業科目ので、是非皆さんも気軽に来てみてください） *国際科目全般は、短期留学生の来日にあわせて授業開始するので、通常の授業より 1 週間遅れて開始する場合がある。担当教員に確認してください。 **ノートパソコンをご持参ください。 This course gives the students the intermediate-advanced knowledge of computer systems and computer networks in a typical academic environment. The lecture stresses fundamental tools and techniques that are applicable to a broad reach of systems such as the use of primitive, but powerful tools as UNIX shell, HTML, LaTeX and Git/GitHub. Note: Please bring a laptop that can access WiFi to class.
前もって履修 しておくべき科目	なし NIL
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	コンピューターリテラシー Computer literacy

教科書等	なし NIL
授業内容と その進め方	授業は基本的に対面となるが、オンライン(リアルタイム)も受講できるように準備している。学生の希望とコロナの事情によって講義全部オンライン(リアルタイム)となる場合もある。 以下に各回の主な学習項目を示す。一般のコンピューターリテラシーの内容とほぼ同じだが、論文執筆に向けた基本的な LaTeX ファイルの書き方を中心に構成されていて、グループワークと発表も兼ねている。 ※ UECwireless へ接続できるノート PC を持参してください。 * Remember to bring a laptop PC to use in class. 授業内容 Course schedule and topics that will be covered ========== 1. Introduction (Usage: The Information Technology Center ITC, UEC campus network use policies) 2. Computer operating system and Tools (fundamentals) 3. Unix operating system (fundamentals) 4. Unix operating system (The Internet and computer network) 5. Word Processing and LaTeX (Basic Unix Editor and LaTeX) 6. LaTeX (Environments and layout; LaTeX commands, Structure, Package, Class, style, Text typesetting) 7. LaTeX (Mathematical Formulas) 8. LaTeX (Displayed; Lists, Tabulator, Tables) 9. LaTeX (Displayed; Graphics, Drawing) 10. LaTeX (Labels, Cross-referencing, Citations and Bibliography) 11. Introduction to Git and GitHub (Git Basic, Website project) 12. HTML (Basic; Structure, Tag, color, typesetting) 13. HTML (Links and Multimedia; Images, Sound, and Movies) 14. HTML (List, Tables and Interactivity, Cascading Style Sheet; CSS) 15. HTML (Website Project Work) ========== This is a lecture-lab course in which the instructor presents the topics, and the students complete the assignments during lab periods or outside of class. The content is intended to be a lecture in combination with a practical exercise (″learn, practice, implement and apply″) that will cover the basic usage of the UNIX system, and including how to write in LaTeX and HTML. Note that the lecture schedule is subject to constant revisions throughout the course.
授業時間外の学習	作成したホームページの発表の準備など

（予習・復習等）	Students are required to create/design a homepage and present it in class at the end of the semester. Thus, the student may need some extra time to create the homepage.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	評価方法 （毎週の課題 50%, 中間発表 30%, 期末発表 20%） 出席が授業回数の 70%に達することを前提条件としている。 Evaluation is given as follows; (Tasks 50%, Mid-Semester presentation 30%, Final presentation 20%) Since this course is a practical course, attendance and participation in class are obligatory. Only students who have 1) maintained at least 70% of the attendance, 2) submitted all the assignments and 3) made their Mid-semester & final presentations can obtain the credits.
オフィスアワー: 授業相談	12:00-13:00、先ずはメールで連絡を。 12:00-13:00, for just-in-case, schedule an appointment before walking in.
学生へのメッセージ	授業に積極的参加と発言をし、活発な質問や議論を行ってくれることを期待する。 We expect students to be the active part of the learning process. We encourage the students' participation in class discussions, asking questions and interacting with others. If you have any comments on the topics covered, please feel free to share with the others in class.
その他	遅刻することなく時間通りに出席し、やむを得ない理由で欠席する或いはした場合には、必ず連絡をすること。 Students are expected to come to class on time. Absences are excused in case of emergency, illness, or trips to conferences.
キーワード	Unix, HTML, Latex, Website, Git/GitHub

令和 6 年度　3 大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	UEC Academic Skills Ⅱ (Information Literacy and Research)		
英文授業科目名	UEC Academic Skills Ⅱ (Information Literacy and Research)		
開講年度	2024 年度 FY2024	**開講年次**	電通大生 2/3/4 東外大生・農工大生 1/2/3
開講学期、日にち、時限	後学期 Second semester 火曜日 10:40～12:10	**開講場所**	C 棟 401 （演習室） C building 401 (Computer Room)
授業の方法	講義 Lecture	**単位数**	2
科目区分	総合文化科目		
開講学科・専攻	全類 All clusters		
担当教員名	Choo Cheow Keong		
居室	East 2-305		
公開 E-Mail	uec-as2@jusst.fedu.uec.ac.jp		
授業関連 Web ページ	http://www.fedu.uec.ac.jp/skills		

講義情報

主題および 達成目標	この授業は、図書館を活用して論文と科学技術資料を検索し、収集した一次情報の整理と仕分けの基礎を習得する。演習では、オープンソース・フリーウェアを活用して、マインドマップ、図形、グラフや発表ポスターを作成しながら、相手に伝わる理解しやすい資料を作成する基礎スキルを学ぶ。学期末には、ポスタープレゼンテーションを行う。（対象学生は、学部 2 年以上と大学院生で、英語力はいっさい問いません。留学生と一緒に学べる英語授業科目ので、是非皆さんも気軽に来てみてください） *国際科目全般は、短期留学生の来日にあわせて授業開始するので、通常の授業より 1 週間遅れて開始する場合がある。担当教員に確認してください。 **ノートパソコンかタブレットをご持参ください。 This course is designed to foster students' ability to identify, evaluate and use diverse information sources effectively in science and engineering studies. It involves the knowledge of information technology tools and their application to research. Students are required to give a poster presentation on their major study or research at the end of the semester. Note: Please bring a laptop or tablet that can access WiFi to class.
前もって履修 しておくべき科目	コンピューターリテラシー UEC Academic Skills I (Computer Literacy)

前もって履修しておくことが望ましい科目	なし NIL
教科書等	なし NIL
授業内容とその進め方	以下に各回の主な学習項目を示す。研究に必要不可欠な情報資源である大学図書館の所蔵文献、学術データベースや電子ジャーナルまたは検索システムを利.用して検索し文献を検索、収集と管理に係る一連の手法を習得する。また講義では、科学技術や理工系における必須な図形描画、表計算、グラフ作成やポスター製作についての知識と技術を実習する。 ※ UECwireless へ接続できるノート PC を持参してください。 * Remember to bring a laptop PC to use in class. 授業内容 Course schedule and topics that will be covered ========== 1. Introduction (Usage: The Information Technology Center etc.) 2. Scientific literatures and resources retrieval (UEC Library) 3. Mind mapping, brain storming 4. Academic Integrity (Referencing, citing, create bibliographies) 5. Managing and sharing resources 6. Writing a research proposal 7. Scientific drawing, Charts, Diagrams and Timelines (Inkscape, GIMP) 8. Tables, Graphs (SciDAVis) 9. Desktop publishing for scientific poster (Scribus) 11. Creating effective scientific poster 12. Formula editor (word processing) 12. Writing an Abstract for research 13. Preparation for presentation 14. Poster presentation 1/2 15. Poster presentation 2/2 ========== The course introduces the use of some powerful tools for scientific research and engineering, field. The lectures include hands-on learning and applicable exercises that assumes no any previous experience or training, so the initial emphases are on the use of the basic scientific software and the basic research procedures. Note that the lecture schedule is subject to constant revisions throughout the course.
授業時間外の学習（予習・復習等）	現在研究している内容、或いは興味のあるテーマの学術論文（1～3 通）を纏めて、ポスター発表することが望まれる。 Students need to read 1 to 3 articles about varied topics, and at the end of the

	semester, the students are expected to make a poster presentation.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	評価方法 （毎週の課題 50%, 中間発表 20%, ポスター発表 20%） 出席が授業回数の 70%に達することを前提条件としている。 Evaluation is given as follows; (Assignments 50%, midterm presentation 20%, Poster presentation 30%) Since this course is a practical course, attendance and participant ion in class is obligatory. Only students who have 1) maintained at least 70% of attendance, 2) submitted all the assignments and 3) made their poster presentations can obtain the credits.
オフィスアワー: 授業相談	12:00-13:00、先ずはメールで連絡を。 12:00-13:00, for just-in-case, schedule an appointment before walking in.
学生へのメッセージ	授業に積極的参加と発言をし、活発な質問や議論を行ってくれることを期待する。 We expect students to be the active part of the learning process. We encourage the students' participation in class discussions, asking questions and interacting with others. If you have any comments on the topics covered, please feel free to share with the others in class.
その他	遅刻することなく時間通りに出席し、やむを得ない理由で欠席する或いはした場合には、必ず連絡をすること。 Students are expected to come to class on time. Absences are excused in case of emergency, illness, or trips to conferences.
キーワード	研究、情報探索、デスクトップパブリッシング、ポスター発表 Research, library, Desktop publishing, poster presentation

令和 6 年度　3 大学英語化科目　シラバス登録フォーマット

授業科目名	UEC Academic Skills Ⅲ (Publishing Literacy and Research)		
英文授業科目名	UEC Academic Skills Ⅲ (Publishing Literacy and Research)		
開講年度	2024 年度 FY2024	開講年次	電通大生 3/4 東外大生・農工大生 1/2/3
開講学期、日にち、時限	後学期 Second semester 木曜日 9:00～10:30	開講場所	東 3 号館 1 階 （演習室） E3 building 1st floor (Computer Room)
授業の方法	講義 Lecture	単位数	2
科目区分	総合文化科目		
開講学科・専攻	全類 All clusters		
担当教員名	Choo Cheow Keong		
居室	East 2-305		
公開 E-Mail	uec-as3@fedu.uec.ac.jp		
授業関連 Web ページ	http://www.fedu.uec.ac.jp/skills		

講義情報

主題および 達成目標	この授業は、学生が各自の研究テーマ(或いは調査研究)に合わせて研究計画の立案、情報収集、研究・調査の遂行、研究論文の作成や投稿までの一覧の課程を通して研究や発表の基礎的スキルを学習する。また、科学者や技術者がその職務を遂行する上で、守るべきモラル・倫理についても学習する。学期末には、口頭発表を行う。(対象学生は、学部 3 年以上と大学院生で、技術力・英語力はいっさい問いません。短期交換留学生と一緒に学べる英語授業科目なので、是非皆さんも気軽に参加ください) *国際科目全般は、短期留学生の来日にあわせて授業開始するので、通常の授業より 1 週間遅れて開始する場合がある。担当教員に確認してください。 **ノートパソコンかタブレットをご持参ください。 This course focuses attention on the exercise of strategic research project. Students are required to carry out a study/research project for more than a half of year with a specific topic. Then, they have to proceed their own project after they choose their own topic and make a monthly plan. At the end of the semester, there will be an international mini-conference that has participants of all the JUSST Exchange Students and other regular UEC Students. Note: Please bring a laptop or tablet that can access WiFi to class.
前もって履修	コンピューターリテラシー

しておくべき科目	UEC Academic Skills I (Computer Literacy)
前もって履修しておくことが望ましい科目	UEC Academic Skills II (Information Literacy and Research)
教科書等	なし NIL
授業内容とその進め方	以下に各回の主な学習項目を示す。講義では、科学技術や理工系における論文執筆から発表・投稿までの基礎知識を身につける。 授業内容 Course schedule and topics that will be covered ========== 1. Introduction (Usage: The Information Technology Center etc.) 2. Academic Integrity (Interesting and Unpublished, Scientific misconduct) 3. Researcher's outputs (Why, How, Where) 4. Planning the research/research protocol (LaTeX editor, Mind mapping, brainstorming etc.) 5. Proposing and Reporting on Research 6. Making scientific presentation 7. Midterm Presentation 1/2 8. Midterm Presentation 2/2 9. Brush up on your skills (Handling Q&A) 10. Communication and Correspondence (Peer, Researcher, Editor, etc.) 11. Academic publishing (Overviews; Dissertation, Monograph, Scientific paper) 12. Academic publishing (Procedures, Processes, and standards) 13. Assessment and evaluation 14. Oral presentation 1/2 15. Oral presentation 2/2 ========== The lecture is designed to support the pursuit of writing research paper and share the skills of quality publishing. All the lectures are linked with practical activities, and at the end of the course, the students are required to write a paper and give a presentation on their research-based projects. Note that the lecture schedule is subject to constant revisions throughout the course.
授業時間外の学習（予習・復習等）	現在研究している内容、或いは興味のあるテーマの学術論文(2～3 通)を纏めて、発表することが望まれる。 Students need to read 2 to 3 articles about varied topics and at the mid and end of the semester, the students are expected to give an oral presentation. For laboratory assigned students, the essential project hours are estimated for more

	than 8 hours a week, where this is the same standard of graduate thesis project.
成績評価方法 および評価基準 （最低達成基準を含む）	評価方法 （毎週の課題 40%, 論文作成 30%, 口頭発表 30%） 出席が授業回数の 70%に達することを前提条件としている。 Evaluation is given as follows; (Assignments 40%, Writing paper 30%, Oral presentation 30%) Since this course is a practical course, attendance and participation in class are obligatory. Only students who have 1) maintained at least 70% of attendance, 2) submitted the writing paper and 3) made their final presentations can obtain the credits.
オフィスアワー: 授業相談	12:00-13:00、先ずはメールで連絡を。 12:00-13:00, for just-in-case, schedule an appointment before walking in.
学生へのメッセージ	授業に積極的参加と発言をし、活発な質問や議論を行ってくれることを期待する。 We expect students to be the active part of the learning process. We encourage the students' participation in class discussions, asking questions and interacting with others. If you have any comments on the topics covered, please feel free to share with the others in class.
その他	遅刻することなく時間通りに出席し、やむを得ない理由で欠席する或いはした場合には、必ず連絡をすること。 Students are expected to come to class on time. Absences are excused in case of emergency, illness, or trips to conferences.
キーワード	研究、論文作成と投稿、口頭発表 Research, Publishing paper, oral presentation